

学級経営ハンドブック

「夢」・「志」を育む学級づくり (高等学校編)



平成26年3月
高知県教育委員会

はじめに

本県では、高等学校で不登校や中途退学等の生徒指導上のさまざまな問題が改善されていない傾向があります。その背景には生徒の発達段階に起因する課題や、中学校と高等学校のシステムの違いに、生徒が戸惑いを感じているという課題等があります。これらの課題を解決するためには、一人一人の学力の向上を保障する授業を行うことと併せて、生徒が安心して過ごすことができ、自分が大切にされていると感じられる居場所づくりや、自信をもって発言したり、物事に取り組んだりすることができるホームルームの環境づくりが不可欠です。

学校の教育活動の多くはホームルームを単位として展開されます。各学校では、学校教育目標を設定しており、それに基づき学年団や専門科等が設定する経営目標があります。ホームルーム担任等はそれらを意識して、目指すホームルームイメージを描いた設計図であるホームルーム経営案を立て、目指す学校像・生徒像を実現するために、生徒とともに一步一步営みを進めます。

ホームルーム経営は、目指す学校像・生徒像を実現するために必要なルールを生徒とともに設定し、生徒と教職員の信頼関係や、生徒同士の人間関係を構築することを基盤として集団づくりを進め、そのプロセスを通して生徒の学習意欲や社会性を育むことを目的に展開されなければなりません。その取組を着実に、効果的に進めるためにはホームルーム担任だけでなく、他の教職員も共通認識をもち、積極的にホームルーム経営に参画することが重要です。

そこで、ホームルーム経営の基本的な考え方を示した学級経営ハンドブックを作成し、県内の高等学校の教員を対象に配付することとしました。このハンドブックを積極的に活用し、生徒とともによりよいホームルームづくりを目指してください。

平成26年3月

高知県教育長 中澤卓史

～ も く じ ～

ハンドブックの活用にあたって

基本編

(1) HR経営の役割	1
(2) 学校経営に基づくHR経営	2
(3) 中学校の学級の特性と傾向	3

実践編1 (HR担任)

(1) HRの指導	4
ア 入学から卒業まで(学年別)	4
年間スケジュール(例)と留意点(例)	8
一日の計画(例)	14
イ SHR	15
ウ LHR(HR活動)	16
(2) 高等学校生徒指導要録・通知表	17
(3) HR通信	18
(4) 教室の環境整備	19
ア 掲示物等	19
イ 清掃活動	19

実践編2 (全教職員)

(1) HR経営と学習指導	20
(2) 単位の修得・進級と卒業	21
(3) HR経営とキャリア教育	22
(4) HR経営と進路指導	23
(5) HR経営と生徒指導	24
ア 生徒理解	24
イ HR集団づくり(ルールづくり)	25
ウ HR集団づくり(人間関係づくり)	26
学級経営を組織的に進める取組(例)	27
(6) HR経営と学校行事	29
(7) 保護者との連携	31

実践事例編

※ 高等学校では「学級」を「ホームルーム」と呼ぶのが一般的です。そのため、本書では「ホームルーム」という名称を用いて、次のとおり表記しています。

◆ホームルーム→HR ◆ショートホームルーム→SHR ◆ロングホームルーム→LHR

ハンドブックの活用にあたって

この学級経営ハンドブックでは、各学校における校長の学校経営ビジョンに基づき、組織として目指す学校像、生徒像を実現するためのHR経営を進めるうえで必要なことについてまとめています。

構成は、「基本編」・「実践編1（HR担任）」・「実践編2（全教職員）」・「実践事例編」からなっています。

また、現場の教員から実践事例を提供してもらうとともに、アンケート調査に協力してもらい、今、HR経営においてどのようなことが課題となっているのか、HR経営を進めるうえでどのようなニーズがあるのかを把握しました。

調査の結果、全回答数に占める回答者の割合が高かった項目は、以下のとおりです。

「HR経営を行ううえで知りたいこと」（複数選択）

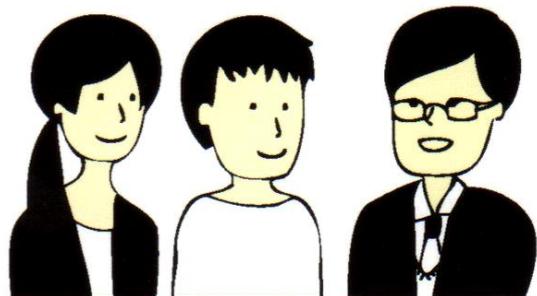
「児童生徒との信頼関係の築き方について」	【51%】
「保護者との関わり方について」	【49%】
「話し合い活動・LHRの進め方について」	【47%】
「望ましい学級環境づくりについて」	【44%】
「HRの目標やルールの作り方について」	【41%】

「HR経営上の課題」（複数選択）

「個別の支援を要する生徒への対応」	【75%】
「生徒同士のケンカやトラブル等が起こる」	【68%】
「生徒が、担任の指示通りに行動しない」	【67%】
「教室内で物（持ち物・掃除道具等）が隠されたり、壊されたりする」	【57%】
「教室内に物（持ち物・掃除道具等）やゴミが落ちたままになっている」	【52%】

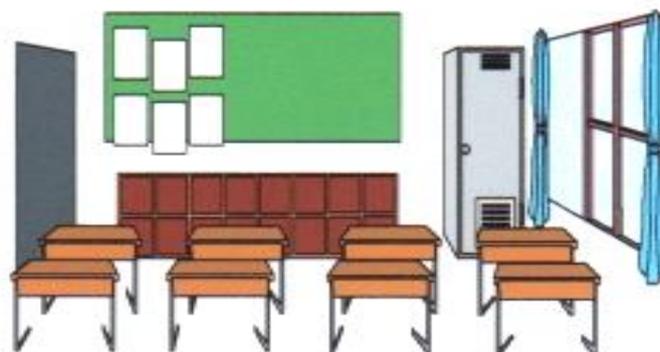
※アンケートの実施時期：平成24年5月～8月

※アンケートの対象者：採用2年・3年・10年の教員・学級づくりリーダー養成研修会の対象となっている小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員（335名）



この学級経営ハンドブックでは、教員のニーズをもとに各項目立てを行うとともに、以下のことに留意してまとめています。

- 1 HR経営の基盤となる教員と生徒の信頼関係を築くことができるよう、関連する項目に「聴く」ことの大切さやそのためのポイントを紹介しています。
- 2 HR経営を通して、一人一人の生徒に自己存在感を与えると同時に、共感的な人間関係を育成するためのポイントや、生徒が自己決定する場を与えることができるポイントを紹介しています。
- 3 一人一人が大切にされる温かいHRをつくるために、生徒同士の話し合い活動を積極的に行ってもらいたいという思いを込め、特別活動におけるHR活動の紹介と併せて、関連する項目において話し合い活動を進めるポイントを示しています。
- 4 各項目の中で、特別な支援が必要な生徒への関わり方のポイントを紹介し、現場の教員のニーズに応えるようにしています。
(ポイントについては、「☆」で示しています。)
- 5 項目によっては、HR経営を進めるうえで、参考になると考えられる事例を【トピック】として紹介しています。
- 6 「実践事例編」として、県内の教員から県教育委員会のホームページに投稿していただいた学級経営の実践事例を掲載しています。「基本編」や「実践編」と関連させながら参考にしてください。



基本編



(1) HR経営の役割

生徒にとって自分が所属するHRは学校生活の基盤です。そのため、HRが生徒にとって、「安心して過ごせる場」、「自信をもって活動できる場」、「大切にされていると感じられる場」となる必要があります。

学校における生徒の成長や発達、その多くがHRを基盤に展開されます。HRで展開されるさまざまな教育活動を、生徒一人一人の円滑かつ確実な成長や発達につなげ、人間形成の場とすることが重要であり、生徒と教員が一体となって運営していくことが大切です。

HR経営においては、一人一人の人権が尊重される環境の中で集団づくりを進める必要があります。そして、学級経営の中に生徒指導の三機能（自己存在感を与える、共感的な人間関係を育成する、自己決定の場を与える）を位置付け、生徒がもっている力を引き出すための関わりや指導が重要となります。それだけに、さまざまな活動や体験を通して望ましい人間関係や、よりよい生活を築こうとする態度を育成することや、自己の生き方についての考えを深めたり、自己の能力を最大限発揮できたりするよう、生徒に働きかけていくことが大切です。

また、HR経営は、学習集団と生活集団の成長を目指す教育活動であることから、教職員の協働が不可欠であることを理解し、確認しておく必要があります。

◆HR活動で育てたい力

□「望ましい人間関係」

生徒一人一人が自他の個性を尊重するとともに、集団の一員としてそれぞれが役割と責任を果たし、互いに尊重し、よさを認め発揮し合えるような開かれた人間関係を形成します。

□「自主的、実践的な態度」

望ましい人間関係を主体的に形成し、HRや学校づくりに参画するとともに、生活の中で起こるさまざまな問題や課題について積極的に取り組み、解決していかうとする自主的、実践的な態度を育てます。また、日常の生活やそこでの生き方、学習や進路に関する諸問題について、自己をよりよく生かすとともに、共に考え話し合い、協力して諸問題を解決したり、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、主体的に物事を選択し、現在及び将来を豊かに責任をもって生きていく自主的、実践的な態度を育てます。

□「健全な生活態度」

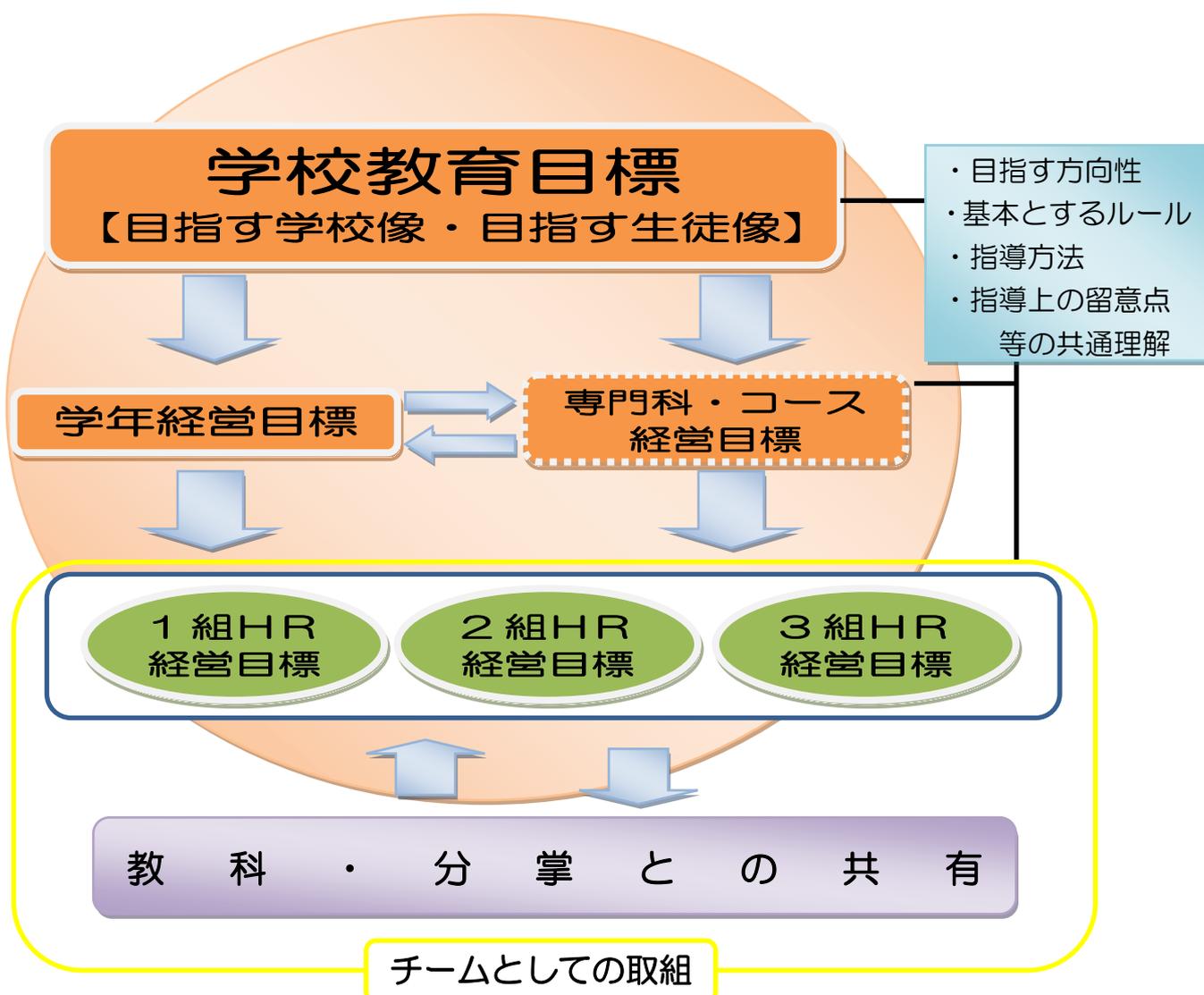
規範意識の確実な定着のもと、日常生活や社会生活を営むために必要な行動の仕方を身に付け、社会的自立に向けて、集団や社会の一員としての在り方を体得し、HRや学校での生活によりよく適応するとともに、主体的に物事を選択決定し、現在及び将来を豊かに生きていく態度や能力を育てます。

(2) 学校経営に基づくHR経営

学校経営は、学習指導要領の趣旨や高知県の教育行政方針、家庭や地域の願いなどに沿って、校長が経営ビジョンを策定します。教職員は、この経営ビジョンのもとに示されている、「学校教育目標」や「目指す学校像・生徒像」に基づき、指導上の基本となることや留意点を共有し、「学年経営目標」や「専門科・コース経営目標」を設定していきます。

そして、HR担任はこれらの目標をふまえて「HR経営目標」を設定し、HRにおける実践の基本的事項を意識するとともに、学年団や専門科・コースと連携しながらHR経営を行います。個々の教員の思いや願いが反映されたHR経営が行われることは大切ですが、そのことが強調され過ぎると、学校教育目標等との関連性が薄くなることがあるので留意しましょう。

HR担任は、学年主任や専門科・コース主任と連携するとともに、学年・教科・分掌・各種委員会といった縦横の組織を活用することが不可欠です。また、副担任はHR担任と共通認識を図りながらHR経営に参画することが大切です。なお、現在、すべての高等学校では、校訓や教育重点目標等をふまえ、キャリア教育の視点から目指すべき生徒像を示した学校経営構想図を作成しています。



学校教育目標と学級経営目標の関連イメージ図

(3) 中学校の学級の特性と傾向

中学校時代は、青年前期（思春期）と呼ばれ、心と体の成長のバランスが崩れ不安定になりやすく、不登校やいじめをはじめとする生徒指導上の問題が見られがちな時期です。また、この時期は、生徒が自分の生き方を模索するアイデンティティー（自我同一性）を確立すると同時に、社会性や規範意識が十分定着しなかったり、満たされない思いをさまざまな場面で表面化させたりし、大人との関係性も悪化しやすいことから、思春期の危機とも呼ばれます。

一方で、自分の長所や短所を自覚するようになったり、専門的な知識・技能を求め深く学ぼうとし始めたりします。また、部活動等を通じて、心身ともに大きく成長する時期でもあります。

いずれにしても、中学3年間は思春期の真ただ中にあり、多くの生徒が成功や感動、失敗や挫折等さまざまな経験をし、いろいろな思いをもって高等学校へ入学してくることを十分理解しておかなければなりません。

◆中学校の学級経営の傾向

- 学年団を中心とした動きが多く、学級担任と学年団の教員が協働して生徒に関わることが多い。
- 学級担任が生徒指導や進路指導の多くを担っており、個別の学習指導をはじめ生徒に密着した指導が行われる。
- 朝や帰りの学活において行われる、一日の目標確認や振り返りと反省に時間をかけている。
- 高等学校に比べ、家庭訪問を行う機会が多い。
- Q-Uの結果を見た時、全国的な傾向としてリレーションが十分でなく、「かたさの見られる学級」の出現率が小学校よりも高くなる。

※リレーション…関係、関連、つながり

【トピック】「進学と戸惑い」について

高等学校進学を間近にひかえた生徒は、新たな人間関係や部活動等、期待することが多い反面、学習面への不安や親しい友人と離れることへの寂しさを抱える場合もあります。入学後に実感する高等学校のHRは、担任と生徒の距離感や関わりの違いから、中学校に比べ人間関係が希薄であると感じることがあり、中には卒業した生徒が中学校を訪れて高等学校に対する不安や戸惑いをつぶやくこともあります。

中学校から高等学校に進学する際に生徒が感じる戸惑いを未然に防ぎ、スムーズな接続ができるようにすることが重要です。そのために、高等学校の教員は中学校の学級経営やシステムの違いを理解することと併せて、中高連携を通して中学生の特性を理解しておく必要があります。そのうえで、中学校での生活を踏まえた「育てたい生徒像」を保護者等とも共有し、協力し合いながら教育実践を進めていきましょう。

実践編 1

(HR 担任)



(1) HRの指導

ア 入学から卒業まで

◇1年生のHR指導

夢をもって希望にあふれている生徒がいる一方で、新しい環境への不安に始まり、学習内容や学習方法の違いに戸惑う生徒もいます。すべての生徒が早くから安心して学校生活を送れるように、生徒と担任、生徒と生徒の人間関係づくりに向けて意図的な取組を行きましょう。

また、生徒の中には第1志望で入学してきた生徒もいれば、第1志望がかなわず妥協や諦めの気持ちを抱いて入学してくる生徒もいます。第1志望で入学してきた生徒が現実との間にギャップを感じて意欲を失ってしまわないように、また、不本意な入学をした生徒がやりがいや目標を見つけられるように、学校のよさや魅力を十分に伝えましょう。入学により環境が大きく変わることは、自分を変えたいと思っている生徒にとって大きなチャンスになります。生徒を励まし支える役割と責任を自覚し、意図的で積極的な関わりを行きましょう。

1年生の段階から卒業後の進路を考えさせることを計画的に行い、目標をもつことの大切さを理解させましょう。個別の面談等により、自分の進路を見据えた教科の選択をさせ、計画的な学校生活が自分自身の進路と関係することを理解させましょう。また、発達障害等のある生徒は初めてのことが苦手です。入学式や、その後の教室移動等、あらかじめスケジュールを示しておくといでしょう。

集団の中で支え合い高め合える人間関係を構築するには、HRの中で、生徒一人一人がありのままの自分を出せ、それを受け入れられる集団であることが大切です。そのためには、担任が自らの経験や失敗談等を伝えるのもよいでしょう。

3年間を通して、学校行事を有効に活用し、生徒の思い出に残るようなHRづくり・集団づくりを進めましょう。

◆入学前の確認のポイント

- 学校経営構想図に基づいた学年目標・HR目標になっているか確認しましょう。
- 教室等の環境整備が行き届いているか確認しましょう。
- 報告書から読みとれる気になる事項については、入学前に確認しておきましょう。
- 中学校時代に長期欠席があった場合の理由や対応を把握しておきましょう。
- ☆ 発達障害等のある生徒の特性に応じた指導と支援の方法を、中学校から引き継いでおきましょう。

◆1年生の指導のポイント

【時期に応じたポイント】

- 入学時には、生徒や保護者が学校へ期待する反面、不安も抱いています。高校生活のシステムやルールについて説明し、高校生活の見通しをもたせましょう（初期指導）。
- 仲間づくり（人間関係づくり）の視点で計画的な活動を取り入れましょう。
- 将来の夢や進路目標、個人的な悩み等を受容する面談を行きましょう。

【通年のポイント】

- 生徒が他者への配慮や人権感覚、コミュニケーション力を養うためには、日頃の教員の気遣いや態度が大きく影響するので、教員は誠意をもって関わり、温かみのある言葉掛けを行いましょう。
- 「HR通信」等を活用して担任の思いや生徒の様子等を紹介し、生徒同士の相互理解や自己を見つめるきっかけにしましょう。また、積極的に保護者にもHRの様子を伝えましょう。
- 高校生活は、社会に出て自立するための準備期間でもあることを伝え、部活動を含む学校生活では積極的な行動を求めましょう。
- 学力を向上させるために、定期テスト等に向けた学習計画を立てる習慣を身に付けさせましょう。

◇2年生のHR指導

自分の意志をもちながら地道に努力できる生徒と、何らかの困難にぶつかり気持ちがくじけて意欲を失い生活が乱れてしまう生徒との二極化が見られる時期でもあります。意欲を失った生徒に対しては、心を開いて話ができる信頼関係づくりが重要になります。

また、2年生は上級生と下級生の間にあり、部活動等において双方に気を遣いストレスを抱えやすい状態となります。生徒が気軽に相談できるようにするため、昼休みや放課後等の機会を捉え、教員の方から積極的に声掛けをしましょう。

特定の生徒が孤立している状態や校外での問題行動等の実態は、掃除の時間や放課後等の世間話をきっかけに把握できることがあります。そのためには、聞き上手になることが大切です。

◆2年生の指導のポイント

【時期に応じたポイント】

- 1年生で、学習面や生活面のつまずきがあった生徒には、新年度が気持ちを切り替えるチャンスとして、具体的な行動目標を立てさせるようにしましょう。
- 3年生引退後の部活動では、1年生を引っ張ることにプレッシャーを感じ、大きなストレスとなることがあります。生徒の心情に共感しながら、支えるように心掛けましょう。
- 夏休みを境に生活が乱れることがあるので、気になる生徒に対しては、部活動の様子を見にいたり、宿題の進み具合を確認したりして、生徒に関わるきっかけを見つけて、励ましや支えとなる言葉掛けを行いましょう。
- 2学期には進路について全体指導と個別指導を丁寧に行いましょう。また、学習に限らず学校生活のすべての活動が進路実現につながっていくという意識付けをさせましょう。
- 年度末には、学習面での努力を先送りせず、春休みにも計画的な学習ができるように指導しましょう。

【通年のポイント】

- 短時間であっても定期的な個人面談による進路への意識付けを行いましょう。
- 自尊感情が低下しているなど気になる生徒については、教科担当や部活動の顧問等との情報交換をもとにプラスの評価ができることを探し、意図的に生徒に伝えましょう。
- 生活が乱れていたり、進路へのモチベーションが下がっていたりする生徒には、短時間でも個人面談を繰り返し、本人の特性や長所を再確認させ、自ら進路を切り開くためには計画的に生活することが重要であることを伝えましょう。

◇3年生のHR指導

高校生活最後となる1年間が、思い出深く将来の支えとなるように、生徒同士がつながり合えるよう工夫をしましょう。3年生では、1学期の終わりには具体的な受験先等、進路希望を確定させる生徒もいます。年度の早い時期から、個別の進路相談や面談を頻繁に行うこととなりますが、HRの人間関係は、個人主義にならず、互いの進路実現に向かって励まし合えるものであるようにしましょう。

生徒の学力や特性について、客観的なデータをもとに進路指導をしつつも、さまざまな能力が飛躍的に伸びる生徒もいるので、さまざまな可能性の中から進路選択をさせましょう。

なりたい職業については、表面的なイメージだけでなく、正しく理解したうえで進路を決定させることが重要です。そのときは、教員は過剰に助言せず、生徒自身の判断を待つことが重要です。しかし、教員が「諦めている」という間違っただけのメッセージにならないように気を付ける必要もあります。特に、挫折体験等により諦めてしまっている生徒には、「諦めてはいけない」という強いメッセージを伝えましょう。

進路指導主事や就職アドバイザーとも連携して、ハローワークや企業、専門学校や大学等の説明会に参加するなど、積極的に情報収集を行い、きめ細かい進路指導を行いましょう。

◆3年生の指導のポイント

【時期に応じたポイント】

- 年度初めには、これからの努力が将来を大きく左右することを再認識させ、希望の進路に向けてどのように努力しているか、「集中力を持続するコツ」「気持ちを切り替えるコツ」等を生徒同士で紹介させるなど、HR全体で最後まで努力する雰囲気づくりに取り組みましょう。
- 最終学年として取り組む学校行事（文化祭や体育祭）は、思い入れも強く、人間関係づくりの貴重な機会です。HR通信やSHR等を活用して、生徒同士の励まし合いや支え合いを意識できるようにしましょう。
- 自分の進路が決定してからも、進路未決定者が最後まで頑張れるように配慮できる集団づくりを進めましょう。

【通年のポイント】

- 計画的に進路指導を進めていても、進路の変更など即時対応が求められる場合があるので、事務的な業務は早めに行い、時間的なゆとりをもつようにしましょう。
- 定期的に個人面談を行い、家庭学習が計画通り実践されているか確認を行いましょう。
- 生徒に過度なストレスやプレッシャーがかかっている場合、朝のSHRの短い時間でも笑顔になれるような対応を心掛けましょう。



◆多様な課程・学科に対する指導のポイント

【定時制夜間部】

- 働きながら高校卒業を目指す生徒から、学び直しを希望する生徒まで、生徒一人一人を大切にしたい教育を行きましょう。
- 個々の生徒の基礎学力や学習意欲等にばらつきがあるため、丁寧な対応を心掛けるとともに、教職員の共通理解を図りましょう。
- 全日制に比べて、生徒と接する時間が短くなりがちです。毎日のSHRだけでは「担任の思い」「毎日すべき行動」「近中中の行事」等、十分に伝えることができないことも多いので、HR通信を活用しましょう。
- 昼間部の開放講座や通信制の受講、学校外における学習の成果等により、3年間で卒業できる制度（三修制）を導入している学校があります。現在の自分の仕事のことや将来について考えさせ、4年間をかけてじっくり学習し卒業するのか、3年間に集中して学習し卒業するのかを明確にさせましょう。

【通信制課程】

- 自宅での自学自習が基本になります。レポート作成で困ったときの相談体制について生徒に伝えておきましょう。
- 普段登校しないので、生活のリズムが乱れてしまう可能性があります。スクーリングの日には、生徒の健康管理に気を配りましょう。
- スクーリングでは、進路の相談やその他心理的・精神的サポート等、いろいろな相談ができるようにしましょう。

【産業系高等学校】

- 将来のスペシャリストを育成するという観点から、専門分野の基礎的・基本的な知識、技術及び技能を身に付けさせます。専門分野の科目は、新入生にとっては未知の分野であり、分かりにくい授業があるときでも、粘り強く努力できるよう配慮しましょう。
- 生徒の意欲と態度を育てるため、職業人講話や体験活動を取り入れ、職業観・勤労観の育成を図る機会の確保しましょう。
- 発表会や競技会、資格取得等へ積極的に参加させ、チャレンジ精神や創造性等の育成を図りましょう。また、効果的な練習方法の指示や補習を行うなど、しっかりとした指導計画に基づいて指導を行きましょう。
- 将来の地域産業を担う人材の育成という観点から、地域産業や地域社会との連携・交流を通して、コミュニケーション能力や社会への適応能力等の育成を図りましょう。

【単位制の学校（総合学科や多部制の学校等）】

- 選択教科・科目が多くあり、それらを決定するときには、面談等を行いながら将来の進路を考えさせ、進路と結びつけた選択ができるようにしましょう。

年間スケジュール（例）と留意点（例）

1年

月	主な内容・留意点等	到達点	キャリア教育（進路指導等）	ここで！HR通信	主な行事
		卒業後の進路の選択肢を知る	進路オリエンテーション （キャリアプランニング能力の育成）	＊入学おめでとう号	
4	<ul style="list-style-type: none"> ＊中学生から高校生へ：入学直後の取組 〔入学式での保護者へのあいさつ（協力してほしいこと） HR開き（所信表明等） HR目標とHR役員の決定〕 ＊席は中間考査が終わるまでは出席番号順 ＊高校生としての学習習慣を新入生に定着させる ＊発達障害等のある生徒のための校内委員会等 （年間においても必要に応じて実施する） 	卒業後の進路の 選択肢を知る	<p>中学校に比べて校区も広がり、保護者は学校との距離が遠くなったと感じています。保護者同士で情報交換をする機会も減るので、入学後1ヶ月間の様子を伝える手紙や通信を書くことで安心してもらえます。入学当初は、できるだけ手紙や通信を書いて、学校の様子を伝えるように努力してみましょう。手紙は関係づくりの第一歩です。返信欄をつくって「見ました」とサインだけでも書いてもらうとよいでしょう。</p>	<p>・担任、副担任の自己紹介 ・学校の連絡先 ・当面の日程 など 入学式の日、意気込みなど一言コメントを生徒に書かせておいて、ホーム通信に載せるのも相互理解に有効です。一言コメントを生徒に書かせてホーム通信に載せるということを、時々取り入れてみましょう。</p>	<p>新入生オリエンテーション 面談期間 教科オリエンテーション 遠足 学力定着把握検査 （進路マップ、スタディサポート等）</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ＊入学後1カ月をめどに保護者に手紙 ＊1年生の保護者に対する意識付け：卒業後の進路に向けて （PTA総会後のHR会など） ＊1年生初めの定期考査前後の意識付け 		職業と学問の つながりを知る	進路LH（類型選択を絡めた内容）	<p>＊県体に向けて ＊中間考査に向けて</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ＊席替え（席替えは担任が主導権を持ってルールを決める） ＊体育祭・文化祭に向けて ＊ホームマッチに向けて ＊初めての期末考査・模試に向けて 	進路講演		<p>＊教育実習生紹介</p> <p>先輩として高校生活のこと、進路のこと等テーマを依頼して書いてもらいましょう。</p> <p>＊期末考査に向けて</p>	<p>1・2年生類型選択説明 進路補習開始（全校）</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ＊類型選択 ＊夏休みに向けての意識付け 	職業と学問の つながりを知る	<p>面談において意識付けをするなどして、目的をもって参加させましょう。</p>	<p>＊ホームマッチに向けて ＊1学期を振り返って</p> <p>よいことや今後に向けてプラスになることを見つけ出して書くようにしましょう。</p>	<p>1学期期末考査 第1回大学進学模擬試験 ホームマッチ 三者面談</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ＊指導要録の作成準備（表紙を中心に） 		オープンキャンパスへの参加		<p>夏期補習</p>

9	<ul style="list-style-type: none"> *夏休み明けの面談（生活面） *成績に関する面談（1学期の成績や模擬試験結果） *体育祭・文化祭の準備 	<p style="writing-mode: vertical-rl;">（勤労観・職業観の確立を目指して）</p>		<ul style="list-style-type: none"> *2学期スタート *体育祭・文化祭に向けて 	
10	<ul style="list-style-type: none"> *体育祭・文化祭の振り返り *中間考査に向けて *遠足に向けて <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>リーダーとして頑張った生徒だけでなく、目立たないけれど大変な仕事をしてきた生徒などの存在をみんなで共有しましょう。</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> 進路LH（職業人講話） 大学出前授業 	<ul style="list-style-type: none"> *体育祭・文化祭を終えて *中間考査に向けて *ホームデー <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>2学期のホーム通信には徐々に進路の話題を増やしていきましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭・文化祭 2学期中間考査 第2回大学進学模擬試験 遠足
11	<ul style="list-style-type: none"> *中間考査を終えて *ホームマッチに向けて *期末考査に向けて 		<ul style="list-style-type: none"> 進路一斉テスト 	<ul style="list-style-type: none"> *期末考査に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> 進路一斉テスト 学力定着把握検査
12	<ul style="list-style-type: none"> *冬休みに向けての意識付け（3学期に向けて） *スキー研修に向けて 	<p style="writing-mode: vertical-rl;">進路実現に求められるもの(力)は何かを知る</p>	<ul style="list-style-type: none"> 進路LH（受験報告書を活用するような内容） 	<ul style="list-style-type: none"> *ホームマッチに向けて *2学期を振り返って 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期期末考査 ホームマッチ マラソン大会 三者面談
1	<ul style="list-style-type: none"> *スキー研修の振り返り 			<ul style="list-style-type: none"> *3学期スタート *スキー研修を終えて 	<ul style="list-style-type: none"> 冬期補習 1年生スキー研修 第3回大学進学模擬試験
2	<ul style="list-style-type: none"> *2年生へ向けての意識付け *3年生からのメッセージ（合格者体験談） *目標とのギャップを埋めるという意識付け *指導要録の作成準備（情報収集） 		<ul style="list-style-type: none"> 進路LH（合格者体験談） 3年生からのメッセージ 	<ul style="list-style-type: none"> *合格者体験談を聞いて *卒業式（3年生を送る） 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業式予行
3	<ul style="list-style-type: none"> *学年末考査に向けて *2年生へ向けての行動化 *春休みの過ごし方（学習意識の向上） *指導要録の作成 		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>どの学年も、春休みを含む年度末から年度はじめの時期は、授業のない期間が夏休みより長いものです。この時期を大事に使いましょう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> *学年末考査に向けて *2年生に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業式 学年末考査 春期補習

2年

月	主要内容・留意点等	到達点				
		キャリア教育（進路指導等）	ここで！HR通信	主な行事		
4	<ul style="list-style-type: none"> * HR開き（所信表明：HRのルール） * 1年間の目標 * 保護者への手紙（あいさつ、HRの様子など） * 席は中間考査が終わるまでは出席番号順 * 生活習慣の立て直し * 2年生としての学習習慣の定着 * HR役員の決定 * 体育祭・文化祭に向けて（HRとして、学校の中心として） 	卒業後の進路の選択肢を具体的に知る ↓	進路オリエンテーション （キャリアプランニング能力の育成） <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学、専門学校、就職受験への流れや学費等について知る。 ・ 私大・国公立大の違いなど、入試について知る。 </div>	* 高2スタート号 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担任、副担任の紹介 ・ 日程 など 2年生は、学校生活のあらゆる場面で学校の中心としての役割を担うこととなります。また、希望の進路に向けて大きく前進するための力をつける大事な時期でもあります。行事に対する取組をHR運営の中心におきつつ、通信等では意識的に進路に向けた話題や書籍等の紹介をしていくとよいでしょう。 </div>	面談期間 遠足 学力定着把握検査 （進路マップ、スタディサポート等）	
5	<ul style="list-style-type: none"> * PTA総会の際のHR会で、保護者に対する進路選択の意識付け * 2年生初めの定期考査前後の意識付け 		進路LH	* 県体に向けて * 中間考査に向けて * 教育実習生を迎えて * 学校を飛び出そう	類型選択説明 PTA総会 県体 1学期中間考査	
6	<ul style="list-style-type: none"> * 席替え（担任が主導権をもつ） * ホームマッチに向けて * 2年生初めの模擬試験へ向けて 		進路講演		類型選択説明 進路補習開始	
7	<ul style="list-style-type: none"> * 科目選択 * 夏休みに向けての意識付け（自分を変える！） 		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;"> 模擬試験を受けたり、来年度の科目選択をしたりすることで、進路についてより具体的に考えさせるようにしましょう。 </div>		* 期末考査に向けて * ホームマッチに向けて * 1学期を振り返って	1学期期末考査 第1回大学進学模擬試験 ホームマッチ 三者面談
8			進路調べ	オープンキャンパスへの参加 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 求人票の見方 ・ 受験の流れ ・ 学費 ・ 受験科目 ・ 学部・学科内容 等。 </div>	* 2学期スタート	夏期補習

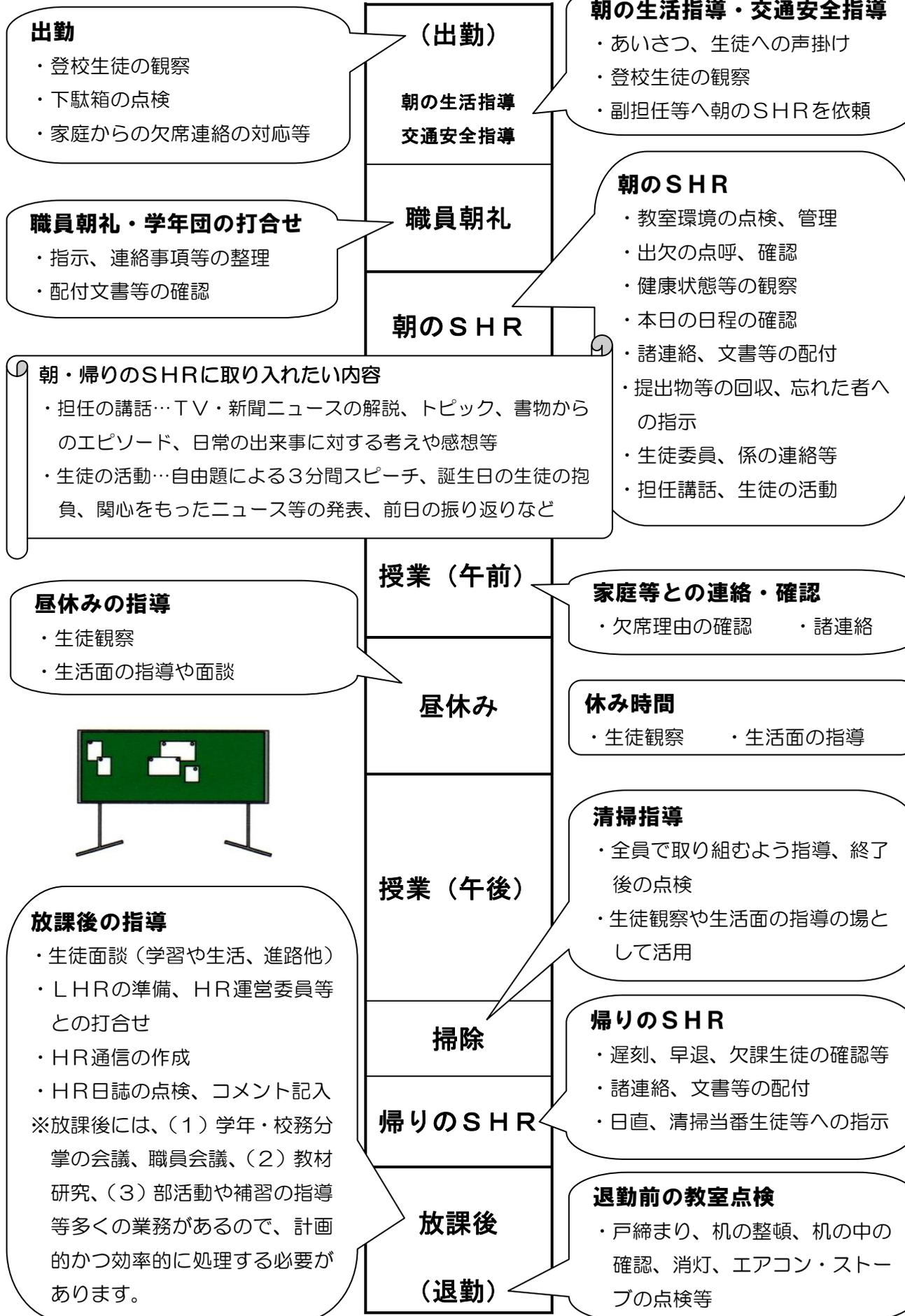
9	<ul style="list-style-type: none"> *夏休み明けの面談（生活面） *成績に関する面談（「高2の秋」=受験を意識する） *体育祭・文化祭の準備 *遠足に向けて 	<p>（進路の現実吟味と試行的参加）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路室の使用の仕方等のオリエンテーション ・HR単位で2学期中をめどに実施 	<ul style="list-style-type: none"> *体育祭・文化祭に向けて 	第1回公務員・就職模擬試験
10	<ul style="list-style-type: none"> *体育祭・文化祭の振り返り <p>高2の秋からの模擬試験では、具体的な志望校を記入しそれについての合格可能性の判定が出ます。生徒はこれをきっかけに、より具体的に志望校研究をし、合格へ向けての学習に本腰が入ってくるので、時期を逃さないよう進路指導もより具体的なものに取り組んでいきましょう。</p>		<p>進路室探訪</p> <p>大学出前授業</p>	<p>3年生は就職試験や専門学校への推薦入試の直前面接練習と本番、大学の推薦入試に向けての小論文や面接の練習に取り組んでいます。1年後の自分たちの姿だという意味で、3年生の動向などを紹介して意識を向けさせておきましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭・文化祭 2学期中間考査 第2回大学進学模擬試験 ホームデー
11	<ul style="list-style-type: none"> *保護者への働きかけ（受験生の保護者としての意識） *ホームマッチに向けて *期末考査に向けて 		<p>3年生の推薦入試の動向を話題にしなが、評定平均の重要性をより認識させて、定期考査へ向けてしっかり取り組ませましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> *中間考査に向けて *ホームデーを終えて 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回公務員・就職模擬試験 進路一斉テスト 学力定着把握検査
12	<ul style="list-style-type: none"> *冬休みに向けての意識付け（3学期に向けて） <p>目標とする進路の現状（ハードル等）と、現状の自己とのギャップを認識させ、目標達成するための具体的な方策を立案させる（授業料・入試科目等も絡める）。</p>	<p>進路決定に向けて具体的な情報を集める。受験報告書を見て求められる力を認識する</p>	<p>進路LH</p>	<ul style="list-style-type: none"> *ホームマッチに向けて *2学期を振り返って 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期期末考査 第1回小論文模擬試験 ホームマッチ 三者面談
1	<ul style="list-style-type: none"> *3年生へ向けての意識付け 「3年生0学期」 <p>得意科目（分野）と苦手科目（分野）の分析 =1年間の学習スケジュール</p>		<p>3学期は「高校3年0学期」であるという意識のもとで、冬休みの過ごし方を考えさせましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> *3学期スタート 	<ul style="list-style-type: none"> 冬期補習 第3回公務員・就職模擬試験
2	<ul style="list-style-type: none"> *3年生からのメッセージ（合格者体験談） ※1年後の自分をイメージする *指導要録の作成準備（情報収集） 		<p>2学期の終わりや3学期の初めの頃に、例えば授業で担当している3年生に、2年生へ向けてのアドバイスを書いてもらって通信で紹介するとよいでしょう。受験に直面している今だからこその実感がこもった言葉は、場合によっては教師の言葉より説得力があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> *卒業式・学年末考査に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> 第4回公務員・就職模擬試験 センター早期対策模擬試験
3	<ul style="list-style-type: none"> *学年末考査に向けて *春休みの過ごし方 *指導要録の作成 <p>1年間の模擬試験の振り返り 生活習慣＝学習習慣の見直し 部活と学習の両立 ＝最後の県体へ向けて</p>	<p>進路LH（合格者体験談）</p> <p>3年生からのメッセージ</p> <p>2年生対象：スキルアップ講座</p>	<ul style="list-style-type: none"> *3年生に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> 卒業式 学年末考査 春期補習 	
				<p>春休みは短いというイメージがありますが、3月上旬から4月中旬にかけて1カ月以上授業がないこの時期をしっかりと取り組ませるよう意識付けることが大事です。</p>	

3年

月	主な内容・留意点等	到達点			
		キャリア教育（進路指導等）	ここで！HR通信	主な行事	
4	<ul style="list-style-type: none"> *進路スケジュール（受験スケジュール）の確認 *1年間の目標 *保護者への手紙 （あいさつ、HRの様子、受験へ向けてなど） *生活習慣の見直し *HR役員の決定 *情報収集のしかた （情報選択能力） *体育祭・文化祭へ向けて （HRとして、学校の中心として） 	到達点 受験スケジュール （就職・進学）を知る	キャリア教育（進路指導等） 進路オリエンテーション （年間スケジュールの確認等） 進路LH 学年団で協力して進路別に ・調査書 ・評定平均 ・入試制度 ・就職試験 ・就職の流れ・面接ビデオ等	ここで！HR通信 *高3スタート号 ・担任、副担任の紹介 ・日程 等 最終学年のスタート号として、 インパクトをもたせた内容に したいものです。 *最後の県体に向けて	主な行事 第1回公務員・就職模擬試験 面談期間 第2回公務員・就職模擬試験 遠足
5	<ul style="list-style-type: none"> *PTA総会のとときのHR会で、保護者に対する 進路決定の意識付け *3年生初めの定期考査に向けて （3年生1学期の評定の重要性） 	調査書・評定平均・ 入試制度・就職試験 について知る	進路LH（4月の進路LHの復習） 進路希望調査 就職出張相談会（面接指導等） 推薦入試ガイダンス	*中間考査に向けて 3年1学期の評定はとても大 切です。それに向けての取組の 必要性を伝えましょう。	PTA総会 県体 第3回公務員・就職模擬試験 1学期中間考査
6	<ul style="list-style-type: none"> *ホームマッチに向けて *調査書の作成準備 *生徒の意識や学習状況の分析→夏休みに向けた指導 *夏のスケジュールの確認 *期末考査に向けて 	進路手続きの 手順を知る	進路LH（面接について） 就職出張相談会（履歴書について） 進路講話	*教育実習生を迎えて *期末考査に向けて	オープンキャンパス 進路補習開始 第1回大学進学模擬試験 第4回公務員・就職模擬試験 第1回小論文模擬試験
7	<ul style="list-style-type: none"> *学力の増進（まだまだ伸びる） *最後の文化祭・体育祭へ向けて 	提出書類・履歴書 の書き方を学ぶ	推薦入試説明会（指定校・国公立） 就職希望者説明会 スキルアップ講習会：就職希望者 進路検討会	*ホームマッチに向けて *1学期を振り返って 天王山といわれる夏の過ご し方（学力はもちろん、秋 冬にむけての体づくり も）を意識させましょう。	1学期期末考査 ホームマッチ 第5回公務員・就職模擬試験 第2回大学進学模擬試験 三者面談
8	<ul style="list-style-type: none"> *調査書の作成 *夏休み明けの面談（メンタル面・生活面） 		進学校内選考会 就職校内選考会 就職試験事前指導		夏期補習 AO入試 公務員試験

9	<p>*志望校の確認と受験スケジュール *体育祭・文化祭へ向けて</p> <p>*推薦書の作成</p> <p>最後の大きな行事に全力で取り組みながら、行事に流されない進路への意識づくりをしましょう。</p>		<p>大学入試センター試験説明会 *受験手続について</p>	<p>*2学期スタート号</p> <p>連絡をより徹底させるためにも、伝達事項は通信にも載せましょう。</p>	<p>就職試験 第2回小論文模擬試験 第3回大学進学模擬試験 推薦入学試験 (専門学校等)</p>
10	<p>行事や受験、受験結果に流されない落ち着いた集団づくりを心がけるとともに、個別の指導の一層の強化を図りましょう。</p>		<p>大学入試センター試験出願</p>	<p>*大学入試センター試験にむけて *中間考査に向けて</p>	<p>体育祭・文化祭 2学期中間考査 第4回大学進学模擬試験 ホームデー 第5回大学進学模擬試験</p>
11	<p>*進路決定者への指導</p>		<p>進路検討会</p>	<p>*期末考査に向けて</p> <p>学校によっては、これが高校生活最後の定期試験となります。特に、進路決定者は、高校生活の集大成としてしっかり取り組ませましょう。</p>	<p>推薦入学試験 (大学等) センター試験直前模擬試験</p>
12	<p>*学力増進(まだまだ伸びる) *残り少ない授業への取組</p> <p>生徒に対して、合格後も卒業まで学習に取り組み、卒業後の進路に備えることの大切さや、これから受験をする生徒への配慮等を確認させましょう。</p>			<p>*2学期の振り返りと冬休みに向けて *最後のホームマッチに向けて</p>	<p>2学期末考査 ホームマッチ 三者面談 冬期補習</p>
1	<p>*高校生活の締めくくりとして *大学入試センター試験受験後の指導 *進路決定者への指導(自動車免許の取得、アルバイト等)</p>		<p>三者面談(出願先決定)</p>	<p>*最終学期を大事に過ごそう</p> <p>・センター試験や一般入試に向けて ・卒業に向けて 残りわずかな高校生活を、自分も周りも大切に過ごせるような心掛けをさせましょう。</p>	<p>大学入試センター試験直前説明会 大学入試センター試験 3年生卒業考査 大学一般入試</p>
2	<p>*卒業文集の作成等</p>				<p>3年生登校日 卒業式予行</p>
3	<p>*指導要録と調査書の最終版の作成</p>			<p>*卒業おめでとう(最終回)</p>	<p>卒業式</p>

一日の計画（例）



イ SHR

SHRは、生徒の状態を確認する時間です。日程確認や伝達事項を話しながらも、一人一人と顔を合わせるように心掛けましょう。

朝のSHRで欠席や遅刻を確認することはもちろんですが、連絡が無かった場合や欠席の連絡を伝言で受け取った場合には、直接保護者と電話で確認を取りましょう。一日の始まりでありつつも、前日の振り返り（家庭学習等）を行うこともできます。毎日の積み重ねが将来につながっていることを意識させる取組を行いましょ。また、帰りのSHRでは、明日につながる明るい雰囲気で行うように意識しましょ。

ややもすると小中学校に比べ、HR担任との結びつきが弱くなりがちな高校において、SHRは生徒と心を通わせる貴重な時間であることを認識し、充実させていくことが重要です。

◆SHRのポイント

【朝のSHR】

- 始まる数分前に教室に入り、机・椅子の並びや黒板、ゴミ等を確認し、気持ちのよいスタートができる環境づくりを心掛けましょ。
- 遅刻と欠席はもちろん、気になる生徒はいないか、表情を見取ることが大切です。
- 一日の日程を生徒一人一人に確認させ、移動教室等一日の流れをイメージさせましょ。
- 前日の振り返りをさせ、記録用紙に家庭学習時間を記入させることで、学習意欲を喚起させることができます。また、学習時間をグラフで示させ、努力のあとが視覚的に確認できるようにし、個別の面談で活用しましょ。
- ☆一日の流れが視覚的にわかるよう、明瞭かつ簡潔な掲示にしましょ。

【帰りのSHR】

- 解決すべき事象が起こった場合は、できるだけ当日中に解決するようにしましょ。ただし、話し合い時間の目安と、話し合うことの重要性を伝えましょ。また、一人で抱え込まずに管理職、学年主任等に相談することも大切です。

【朝と帰りの共通のポイント】

- SHRは、伝達するだけの時間と捉えず、生徒の状態を確認し情報を得るための時間と捉えましょ。
- 日程連絡のみに終わらせずに、何かトピック等を話すように心掛けましょ。その際、長くなりすぎないように気をつけましょ。
- 外部講師等が来る予定があれば、朝に紹介の時間を入れ、帰りには感想を書かせて振り返りの時間にしましょ。
- 「最近の気になるニュース」を発表させることは、学習意欲向上につながる環境づくりに効果的です。

ウ LHR（HR活動）

学習指導要領の特別活動に位置付けられているLHRの内容は、「学校における生徒の基礎的な生活集団として編制したHRを単位として、HRや学校の生活の充実と向上、生徒が当面する諸課題への対応に資する活動を行うこと。」と示されており、「①HRや学校の生活づくり、②適応と成長及び健康安全、③学業と進路」の3つに整理されています。詳しくは学習指導要領で確認し、実施に当たっては3年間を見通したバランスのよい年間計画を立てるようにしましょう。

◆LHRのポイント

- 課題解決の経験から身に付く力は、将来社会人としても必要な力です。自分の意見を主張したり相手の主張を認めたりする体験が大切なことを認識させましょう。
- 課題と自分自身との関係を明確にさせることが、意義のある全体協議のベースとなります。
- 目指す目標と現状とのギャップを、生徒と一緒に確認しましょう。
- 人間関係づくりに関わる活動では、生徒が気兼ねなく自由に発言できる環境を整え、仲間意識をもたせるように心掛けましょう。
- 内容が特定の分野に偏らないように計画を立てましょう。また、年間のバランスを重視しながらレクリエーション活動や視聴覚教材を入れるなど、HRが楽しい雰囲気となるような内容も盛り込んでみましょう。

【トピック】「気になる生徒の発見」について

学習での行き詰まり、人間関係での悩み等、精神的に不安定な生徒の内面に気付くことができる感性も教員の専門性の一つです。

いじめや不登校等の予兆を察知することが未然防止の鍵となります。「いじめ」や「児童虐待」の教職員用ガイドライン（高知県教育委員会作成）にあるチェックリスト等を活用し、これまでの取組を振り返ってみましょう。



(2) 高等学校生徒指導要録・通知表

高等学校生徒指導要録は、生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し、その後の指導及び外部に対する証明等に役立たせるための原簿となるものであり、各学校で学習評価を計画的に進めていくうえで重要な表簿です。学校教育法施行規則第24条第1項においては、校長が作成すべき表簿と規定されており、その保存期間については、同規則第28条で、「学籍に関する記録」は20年間、「指導に関する記録」は5年間と定められています。

高知県教育委員会としては、高等学校生徒指導要録は在籍中の生徒の学習や活動の成果を記録した重要な表簿であることから、その保存に関する取扱を簡素化するため、「学籍に関する記録」に加え、「指導に関する記録」についても20年間保存することとしています。

通知表の機能は、生徒の学習や学校での活動について学校と保護者との連絡を密にし、相互の理解を深め、連携や協力を促進することにあります。また、生徒の学習指導の過程や成果、一人一人の可能性等についての的確に評価し、その後の学習の支援に役立つ機能もあります。

◆高等学校生徒指導要録作成のポイント

- 適正な記録を行うために、指導と評価の一体化や指導方法の工夫・改善等、学校全体で評価についての調査・研究を進めましょう。
- 総合所見及び指導上参考となる諸事項の記入に際しては、生徒の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることが基本となるよう留意しましょう。ただし、生徒の努力を要する点等についても、その後の指導において特に配慮を要するものがあれば記入しましょう。

◆通知表のコメント作成のポイント

- 通知表のコメントには、できないことより、できるようになったことやできつつあることに視点を当て、生徒や保護者にとって意欲が高まる内容にしましょう。
- 生徒の具体的な様子を織り込みながら、分かりやすく端的に記述しましょう。
- 学期、学年の指導の経過と生徒の具体的な成長が見えるようにしましょう。



(3) HR通信

HR通信は、学校やHRにおける生徒の生活や学習の様子等を家庭へ知らせるとともに、生徒同士、場合によっては保護者同士をつなぐことができる貴重なツールです。教員がHR通信を通して、日頃言葉として伝えきれない思いや願いをメッセージとして生徒や保護者に伝えることで、生徒は同じ情報を共有しているという安心感を得られ、個々の生徒のHRへの帰属意識が高まり、保護者の理解や協力などにもつなげていくことができます。

HR通信をこまめに出すことにより、生徒との関わりを作ることができます。HR経営の方針を生徒に分かりやすく伝えたり、どのような観点・視点で生徒を見ているかを保護者に知ってもらったりする機会になります。そのためにも、HRの様子を細かくHR通信で報告しましょう。

HR通信を発行することが、より高いレベルの実践への意欲につながります。過去の実践がHR通信として残っていることで、自分自身の進歩を客観的に捉えることにもつながります。

◆HR通信作成のポイント

- 行事の予定や日程を知らせるだけでなく、進路情報の提供や、授業、HR活動、学校行事等の中で見られた生徒のよさや頑張っている様子等も伝えましょう。
- 生徒のよいところを見つけ、教職員間の情報交換を行い、生徒をほめる記事を載せましょう。
- 生徒がHRに帰属しているという意識がもてるように、さまざまな感想文の抜粋、生徒のコメントなどを載せましょう。
- 授業内容等を載せることで、授業力の向上につなげましょう。
- 情報機器を活用し、蓄積された過去のデータを基にして、担当のHR用に改変したり加筆したりするなど、よりよい通信の作成に努めましょう。
- 個人情報等の取扱いや写真の掲載については、事前に学校全体で保護者の許可を得るなど、学校として統一しましょう。
- HR通信を配付する前に、管理職によるチェックを受けましょう。



(4) 教室の環境整備

ア 掲示物等

教室の環境は、学習の効率や生徒の情緒に影響を与えます。誰もが安心し、落ち着いて生活が送れるよう、教室の環境を整えることはHR経営において大切です。きれいに整理整頓されている教室で過ごす生徒は、居心地のよさを感じ、整理整頓の大切さを学ぶことができます。それだけに、日頃の教室環境の点検は、意識的に行う必要があります。

◆掲示物等のポイント

- 掲示物はただ掲示するのではなく、どんなメッセージを伝えるのかを常に意識しましょう。
- 高等学校では進学や就職に関する情報誌等が多くあり、中学校に比べ情報量が多くなります。掲示物は整然と掲示することを心掛けましょう。また、情報誌等はいつでも見やすい状態にするため、書棚等に収めておきましょう。
- めくっていたり、画びょうが外れていたたりすることがないように注意しましょう。
- ☆ 掲示物については環境を整える役割がありますが、一方で、刺激物になる場合もあります。黒板に集中しやすくするために、教室前面には必要最小限のものだけを掲示し、黒板周りをすっきりとさせましょう。

イ 清掃活動

掃除の時間は、役割や責任を果たすことの大切さを生徒に教える大切な場面でもあります。公共物を大切にする道徳心や学校への愛着といった、「心」を育てる時間とも捉えることができます。また、校外での清掃ボランティア活動等は、進んで取り組むことで達成感を得られるとともに、地域の方とふれ合う貴重な機会にもなります。

また、掃除の時間は、生徒同士や生徒と教員をつなぐことができる時間でもあります。HR担任やその他の教員が掃除のもつ意義をしっかりと理解するとともに、生徒と一緒に掃除に取り組むことで、HRの一体感につなげることが可能です。

◆教室内の美化のポイント

- 気持ちよく授業を始められるよう、日直等を活躍させ、黒板は常に美しくしておきましょう。
- 机や椅子等に落書きをしたり、傷を付けたりする行為を見逃さず、物を大切に扱うよう指導しましょう。
- 高等学校では、選択科目によって教室を移動することが多くなり、他の生徒が自分の机を使用する場合もあります。日頃から机の上や中を整頓しておくよう指導しましょう。また、個人のロッカーについても整頓するよう指導しましょう。

実践編 2

(全教職員)



(1) HR経営と学習指導

教科における学習指導は、学校での教育活動の中心であり、その目的は「学力」の形成にあります。特に学力の三要素である「基礎的な知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力、その他の能力」、「主体的に学習に取り組む態度（学習意欲）」を身に付けさせる教育活動を行うために、学習指導要領に示される各教科の目標・内容をよく理解し、それを一人一人の生徒が着実に身に付けられるよう、しっかりとした指導計画を立てることが重要です。

学習活動は、単に教科に関する理解を深める時間だけではなく、人間関係を育む時間でもあることから、教員と生徒、生徒同士の間人的な触れ合いも大切にする必要があります。そして、学習活動におけるルールの遵守や互いの理解・協力等を通して、HR集団を育てていくことが大切です。そうすることで、個性の伸長や自尊感情の育成、信頼関係の醸成が図られるとともに、温もりのあるHRづくりにもつなげることができます。

HR担任は、学習規律や授業展開における留意点、HR目標、ルール等について関係教員としてしっかりと共有し、教科担当によって対応が異なることがないようにしておく必要があります。

◆学力向上に向けて大切にしたいポイント

- すべての授業において学習の目的や意味、授業のねらい等を明確に示し、生徒と共有しましょう。
- 生徒の考えを授業の展開に反映させることや、言語活動を充実させるために、生徒同士が考えを述べ合うなど、多様な意見や考えが大切にされる相互交流のある授業を展開しましょう。
- 生徒の意見や考え方に対し適切な評価（承認、称賛、励まし等）をしましょう。
- 生徒一人一人の情報を教科担当等と共有しましょう。
- 個人面談等を通じて、勉強方法や教科内容の課題について具体的な対策を示しましょう。
- 学力定着把握検査（進路マップ、スタディサポート等）の結果に基づいて、生徒の実態に応じた学力向上対策を研究しましょう。
- 定期考査等に向けた学習計画を立てる習慣を身に付けさせ、タイムマネジメント能力を育成しましょう。
- ☆生徒の学び方や特性を把握し、「分かる」「できる」授業づくりのための共通項目を整理するなどして、ユニバーサルデザインに基づく授業を行いましょう。
 - ・口頭だけでなく視覚的に提示する、授業の中に書く・音読・話すなどの活動を入れる、始まりと終わりを示すなど
- ☆ユニバーサルデザインに基づく授業を行っても、なお特別な支援が必要と思われる生徒については、障害の特性に応じた教材、その生徒に向けての指示等の補足的な支援を行いましょう。

【トピック】全教職員の関わり

学校には、さまざまな立場や役割を担う教職員がいます。HR経営に、HR担任だけでなく、全教職員が関わることで、さまざまな教育活動との関連や指導の一貫性が図られたりします。また、生徒が、複数の教職員から大切にされている自分を感じることができたりするなど、更なる教育効果を期待することができます。

(2) 単位の修得・進級と卒業

中学校とは異なり、高等学校は単位を修得することにより、進級や卒業が可能となります。単位の修得には学習面での努力はもとより、生活面での努力（実授業時数の3分の2以上の出席（教務に関する高等学校長協会申し合わせ事項より））が必要不可欠なため、保護者との連携を十分に取りながら、進級・卒業できるように適切に指導していく必要があります。

進級や卒業の条件は、各学校で異なるため、各校の教務内規を熟読し理解したうえで、生徒・保護者に対して正しい情報提供を行い、周知徹底する必要があります。

また、単位の修得については、教科の単位の他、技能審査やインターンシップ、ボランティア活動等においても単位を認定している学校も多いので、生徒・保護者に説明しておくことが大切です。

◆成績不振の生徒等への支援のポイント

- 成績不振の生徒については、教科担任や保護者等と十分に連携を取り、取組の様子を随時点検し、原因や今後の対策に関して、進路希望を絡めながら、適切な指導を行っていきましょう。
- 成績不振の生徒については、どの科目や分野を苦手としているかを把握し、ポイントを絞った放課後の勉強会を実施したり、テスト対策用プリントを作成させたりする指導を心掛けましょう。
- 学習内容に応じたノートの使い方や復習・予習の仕方等について指導するとともに、HR担任と教科担当が連携して、授業に合わせた家庭学習ができるよう指導しましょう。
- 各教科の宿題・作品・レポート等の提出状況について、HR担任と教科担当で情報を共有し、提出期限を守るよう指導しましょう。
- 単位が修得できなかった生徒については、教科担任・保護者と連絡を取り合いながら、励まし、追認試験等に向けて再度取り組めるようにしましょう。
- 生活リズムが乱れている生徒については、欠課時数に関しても教科担任と連絡を密にし、指導していきましょう。
- ☆学習が伸び悩んでいる生徒に対しては、特性に応じて、休み時間や放課後指導など、より集中的に柔軟な形態で指導しましょう。

【トピック】原級留置の生徒に対する指導について

原級留置の生徒がHRにいる場合は、早く新しいHRになじめるように、4月当初に面談をしたり、保護者と連絡を取り合ったりするなどしましょう。また、原級留置が決定した生徒については、新年度に向けて心新たなスタートが切れるよう、保護者を交えてよく話し合しましょう。



(3) HR経営とキャリア教育

高等学校段階では、授業や特別活動及びさまざまな体験活動を通し、自ら考え、主体的に判断し、行動する力、具体的な将来設計を行う力、進路実現に向かって努力する態度など、社会的・職業的自立に必要な力を育成することが大切です。したがって、HR活動では高校生活を通してどのような力を育てるかを明確にし、生徒の実態に応じて、計画的・継続的に指導していくことが重要になります。

HR活動はキャリア教育実践のための機会の宝庫です。HR担任の継続的な指導・援助により、HRの雰囲気や生徒の意識は大きく変容します。これまでの活動をキャリア教育の視点で捉え直すことで、各学校・担任独自の新たな企画を生み出すこともできます。キャリア教育を通して、HR経営をさらに充実したものにしましょう。

◆キャリア教育を推進するためのポイント

- キャリア教育を進める際には、高知のキャリア教育の三本柱の「学力向上」、「基本的生活習慣の確立」、「社会性の育成」を意識しましょう。
 - ・学力向上とは、思考力・判断力・表現力等の知的能力の育成を目指します。
 - ・基本的生活習慣の確立によって、自律的・主体的実践力が培われます。
 - ・他者や社会との関わり、さまざまな体験活動等により、自他や社会に対する理解が深まり、コミュニケーション能力が高まります。
- 自分と向き合う場を設定し、自己のよさや特性を捉えられるようにしましょう。
 - ・自己理解（特に自己の肯定的理解）はキャリア教育の大切な側面の一つです。
- 社会的・職業的自立のためにどのような力を育てなければならないのかを問い直しましょう。
- 学校の特色や学科の特性、生徒の実態に即して、自校の生徒に身に付けさせたい力を明確にし、既に行っているキャリア教育の「断片」を関連付けましょう。
- 体験による学びの喜びを教室での学習に結び付けましょう。
- 地域の職業人や卒業生、保護者を招いての懇談や、興味のある職業に就いている人へのインタビュー活動等を行い、コミュニケーション能力の伸長を図るとともに、望ましい勤労観・職業観を育て、進路に対する意識を高めましょう。
- HR通信等を利用し、日々の出来事に触れながら社会的・職業的自立に必要な力について常にメッセージを送るようにしましょう。
- 言葉遣いについて指導を行い、社会の一員としての自覚につなげましょう。



(4) HR経営と進路指導

進路指導は、卒業後の生徒の進学や就職に関して、教員が指導や助言を行う教育活動です。進路指導では、生徒が将来設計を立てることができるように支援したり、指導を通して生き方について考えたりすることで、自らの将来を切り拓く力を育てることを目指しています。

自らの将来を切り拓く力を育てるためには、生徒の自己理解を進めるとともに、適切な進路指導が必要となります。そのためには、学校としての進路指導計画を立て、各学年において身に付けさせたい力を明確化するとともに、1年生からの計画的・継続的な指導・援助を行うことが重要です。

HR担任は、普段から生徒理解に努めるとともに、必要な資料を収集することを通して、生徒一人一人の能力や適性、興味関心などを十分理解する必要があります。生徒理解は、HR経営を行ううえで不可欠なものであると同時に、進路指導においても基盤となるものであることを認識しましょう。

◆進路指導を効果的に進めるためのポイント

- 「進路の手引き」等を活用して、希望実現までの経過と活動内容を十分理解させましょう。
- 教室に「進路コーナー」を設け、自由に進路に関する情報が得られるようにしましょう。
- 個別面談等を積極的に行い、生徒の適性、学力、努力の様子、保護者の意見等について話し合い、的確な助言をしましょう。
- 進路希望に合わせたコース分け、選択科目の決定に向けての指導を徹底しましょう。
- 会社見学や学校見学についても説明し、積極的な参加を促しましょう。
- 説明会、模擬試験、模擬面接等の情報をもれなく伝え、その有効な利用法について指導しましょう。
- 教員対象の説明会に参加する際には、よりきめ細かな情報を得るために、事前に希望者の質問事項をまとめておきましょう。
- 模擬面接は、個人や集団の形で複数回実施し、必要に応じて管理職等の協力を得るようにしましょう。
- 生徒の希望する会社や大学等について、事前に調べさせ、教員は生徒に関する資料づくりをして、三者面談に臨みましょう。
- 必要書類作成の準備のために、生徒一人一人の委員会・部活動の役職や活動実績などについて確認し、整理しておきましょう。
- 不合格者に対する級友の言動に注意するとともに、次の選択に向けて的確な助言をしましょう。
- 出願等進路に関する書類については、時間的なゆとりをもって作成させましょう。
- 精神的に不安になる生徒もいるので、じっくりと話を聴き、落ち着きと自信を取り戻させる支援をしましょう。

(5) HR経営と生徒指導

生徒指導は、すべての教育活動において貴かれる大切な視点であり、「自己存在感を与える」、「共感的な人間関係を育成する」、「自己決定の場を与える」という生徒指導の三機能を通じて自己指導能力※を育むことを目指しています。そのためには、HR経営や学習活動の場面に生徒指導の三機能を位置付け、生徒のもっている力やよさを引き出そうとする関わりが求められます。

日常的に生徒に関わる機会の多いHR担任は、生徒の発達を促すだけでなく、いじめや不登校、非行等の初期対応の中心になることが多くなります。初期対応の充実を図るためには、日常的な観察だけでなく、面談やアンケート等を組み合わせて生徒理解を深めることが必要です。

また、生徒個々の発達を促したり、いじめや不登校、非行等の問題への予防的な取組を進めたりするためには、個別指導だけでなく、生徒一人一人が安心して過ごせ、社会性を育む場としてのHR集団づくりの視点が不可欠です。

※自己指導能力とは、「その時、その場でどのような言動が適切であるか自分で考え、判断して実行することができる能力」のことです。



ア 生徒理解

◆ 生徒理解のポイント

- HRには多様な生徒がいることを前提に、多面的に生徒理解を深めるよう意識しましょう。
(生徒理解の対象) ・能力の問題(身体的な能力、知的な能力、学力等) ・性格的な特徴
・興味、関心、要求、悩み ・交友関係 ・家庭環境、生育歴等
- 生徒の抱えている問題点だけを見るのではなく、生徒のもっている強みの部分にも焦点を当ててその部分を伸ばす視点を大事にしながら関わっていきましょう。
- Q-U等のアセスメントツールを活用して、生徒について客観的・総合的な理解を進めましょう。
- HR担任だけでなく、教科担当や部活動顧問等と情報共有の機会をもつなど、複数の視点から多様な見方ができるよう工夫しましょう。

◆ 生徒指導の充実を図るうえでのポイント

- HR活動や生徒会活動、学校行事等を通して、生徒が主体的に考えて行動する機会を設け、生徒が達成感や自信を獲得できるように支援しましょう。
- 日常の学校生活における生徒の不安や悩み、訴えをしっかりと聴き、受け止めるようにしましょう。生徒の悩みや訴えの内容によっては、学年主任や教育相談担当、管理職等に相談して対応しましょう。
- いじめや不登校、非行といった生徒の問題については、そのサインとなる状態をつかんでおき、できるだけ早期に発見し、早期に対応する予防的な生徒指導を心掛けましょう。
- 生徒の問題が生じた際は、HR担任が一人で抱え込むのではなく、学年主任や生徒指導主事、管理職等と連携して、チームで対応するようにしましょう。

イ HR集団づくり（ルールづくり）

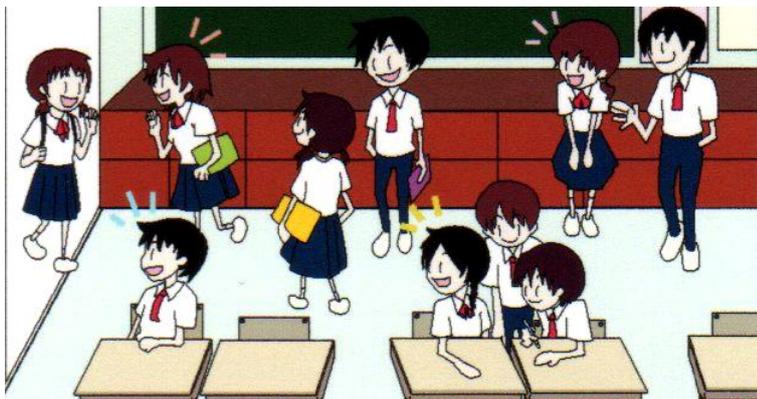
生徒一人一人がHRの中で安心し、自信をもって生活したり、大切にされていると感じたりすることができるようにするために、HR集団のルールづくりが不可欠です。HRでのルールは、学校・HR生活における「望ましい集団活動」を通して、「よりよい人間関係」を形成していくうえで、なくてはならない決まりです。その中には、学習規律や基本的なあいさつ、話す・聞く態度等「仲間と関わるうえでの最低限のマナー」も含まれています。

◆ ルールづくりのポイント

- HR担任の考えを一方向的に押し付けたルールづくりでは生徒が納得しない場合があります。HRでのルールづくりを進める際は、なぜそのルールが必要なのかを生徒とともに話し合しましょう。
- HR生活におけるルール、授業におけるルールが定着するよう、5月まではSHR等で常に確認して意識付けましょう。
- ルールが守られているかを定期的を確認し、守られていなければHR活動等で、守るためにどうするのかについて話し合うことが必要です。場合によってはルールを作り直すことも必要です。

【トピック】ルールやマナーの意味

各学校で定められている教育方針や重点目標には、必要な理由や込められた思いが必ずあり、HRでのルールも同じです。それぞれのルールがなぜ必要なのかを、HR担任の思いにのせて分かりやすく伝えましょう。生徒が、ルールのもつ意味を理解することができれば、決めたルールを単に守るだけでなく、日々の生活の中で求められるマナーにも気を配ることができるようになります。



ウ HR集団づくり（人間関係づくり）

人間は人と人との関係の中で育ち、社会性を獲得していきます。生徒にとって人間関係は、他者との信頼や協力、所属意識等に影響を与えるものです。

HRが心休まる温かさを感じられる場になっている、自分の居場所があり所属意識をもてるものになっている、みんなから認められ自尊感情を育むものになっているなど、HRの人間関係の中に温もりのある関係性が存在していることが大切です。

◆ 生徒と教職員の人間関係づくりのポイント

- 教職員が生徒の話をしっかりと聴き、生徒との関係性を深めましょう。
- 教職員が自分の子どもの頃の話や失敗談等を話し、適切に自己開示を行いましょ。
- 日誌にHR担任の感想や肯定的なコメントを丁寧に書きましょ。
- 始業前や放課後、休み時間の生徒の様子を注意深く観察し、生徒同士の関係やグループ間の関係を把握しましょ。
- ☆生徒一人一人の能力や特性の違いを認め、得意なことや強みを見つけ、ほめて伸ばすようにしましょ。

◆ 生徒同士の人間関係づくりのポイント

- 入学時やクラス替えの後には、生徒同士の関わりを意識的に仕組む必要があります。教職員が役割行動をうまく設定して、生徒同士を広く交流させていくよう工夫しましょ。
- 授業でペア学習やグループ学習等を導入して、仲間と協力して活動を行えるような課題を出しましょ。
- グループ活動を行う際は、2人組から4人組、4人組から8人組と、徐々に関わり合う集団の人数を増やすなど工夫しましょ。

【トピック】「楽しい学校生活を送るためのアンケート Q-U」の活用

Q-Uは、生徒の学校生活での満足と意欲、HR集団の状態を調べる質問紙であり、教員の観察や面接で得た情報を客観的に補う資料として活用することができます。Q-Uを実施することで、前述のHR集団のルールやリレーションがどのような状態にあるのかをつかむことができます。また、不登校やいじめの予防、学習意欲が低下している生徒の早期発見につなげることもできます。

学級経営を組織的に進める取組（例）

役職		項目	<学習指導>	<進路指導>
学年団 学年主任 専門科等			<ul style="list-style-type: none"> ・学年会等において、担任や各教科担当等から情報を集め、教務部や各教科主任に支援を求める。 ・状況によって、担任とともに保護者面談を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心のあることがらや適性診断の結果、学習の経緯等を持ち寄り、アドバイスの内容や行い方を検討する。 ・必要な分掌へ支援を求める。
教科	各授業担当 各教科主任 総合的な 学習担当等		<ul style="list-style-type: none"> ・授業での全体指導の充実や、目的ある机間指導を行う。 ・取組状況やテストの結果等について担任・学年主任に伝える。 ・担任と協力しながら本人の状態を確認し、特性に応じて配慮や支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間等を通じて、進路への興味関心を高める。 ・会話の機会を捉え、進路に対する関心を高める。
校務分掌	教務主任 教務各担当者		<ul style="list-style-type: none"> ・放課後の個別指導や小テストを実施する。 ・効果的な家庭学習の指導方法を担任や各教科担当にアドバイスを行う。 	
	進路指導主事 進学就職各担当 アドバイザー等		<ul style="list-style-type: none"> ・将来の目標と学習の目的を関連付け、学習意欲を高めるよう具体的アドバイスを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の活躍や進路決定時の感想等、実際の事例を学べる機会を設ける。 ・進学や就職に関する情報誌を配付し職業観を高める。 ・担任と協力しながら、本人の適性等について、アドバイスを行うなど、進路決定に向けて支援を行う。
	生徒指導主事 補導専任 人権教育主任 教育相談担当 生徒会担当		<ul style="list-style-type: none"> ・学校内外の生活が学習に集中できる環境か把握する。 ・問題があれば解決に向けて担任とともに支援する。また、その支援を各分掌へ伝え、協力を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標が定まらない原因が生活面にあるかを把握する。 ・生活の乱れの背景に何があるかを担任とともに検討する。
その他	養護教諭 スクールカウンセラー 心の教育アドバイザー		<ul style="list-style-type: none"> ・心の安定や発達上の課題等について把握する。 ・課題があればケアを行うとともに、指導上配慮すべき事柄を全体へ周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標が定まらない原因が当該生徒に起因することでない場合に、心のケアにあたる。 ・担任や必要な分掌と情報を共有する。
	部活動顧問		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活動時間等が負担にならないよう配慮する。 ・部活動が学校生活の励みになるような声掛けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と協力しながら、本人の適性等について、アドバイスを行うなど、進路決定に向けて支援を行う。
	特別支援教育学校 コーディネーター		<ul style="list-style-type: none"> ・特性に応じた指導・支援のアドバイスを行う。 ・外部専門機関と学校をつなぐコーディネーターとなり、担任や授業担当等による効果的な支援につなげる。 ・状況に応じて校内支援委員会を開き、具体的な支援について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特性に応じた指導・支援のアドバイスを行う。 ・外部専門機関と学校をつなぐコーディネーターとなり、担任や授業担当者等による効果的な支援につなげる。 ・状況に応じて校内支援委員会を開き、具体的な支援について検討する。
	その他			<ul style="list-style-type: none"> ・事業所や志望学校から直接、進路に関する話をしてもらう。 ・卒業生から、進学先や就職先でのやりがいや楽しさ、苦勞等について話をしてもらう。

＜生徒理解と生徒指導＞	＜HR集団づくり＞
<ul style="list-style-type: none"> ・気になる生徒やHRの様子等について、定期的・継続的に情報共有を行い、必要な場合はチーム支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HRづくり、集団づくりに向けた学年団の年間指導計画を作成するとともに、取組について振り返る。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」「自己決定の場を与える」ことを意識した授業を行う。 ・授業の中でのルールの徹底を図る。 ・気になる生徒について、担任や学年団と定期的・継続的に情報共有を行い、必要な場合は、チーム支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動を効果的に取り入れ、生徒同士が触れ合う機会をつくる。 ・生徒が分からないことは分からないと言え、間違いや失敗であっても意見が尊重される支持的な風土をつくる。
<ul style="list-style-type: none"> ・授業時数等についての情報収集と情報共有を行い、必要な場合は担任と協力して面談を行う。 ・生徒の実態に応じた教育課程の検討を行う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められるマナーや言葉遣い、身だしなみ等について伝える機会を設ける。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・気になる生徒について担任や学年団と情報共有を行い、必要な場合はチーム支援を行ったり、個別の指導を行ったりする。 ・生徒の実態を踏まえつつ、生徒指導の意義や生徒理解等についての校内研修を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と情報共有しながら、各HRの人間関係やいじめの有無等について把握する。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒について担任等と情報共有を行い、支援が必要な場合はチーム支援を行ったり面談を行ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HRでの人間関係づくりや教員のカウンセリングマインドを高める研修等を開催する。
<ul style="list-style-type: none"> ・気になる生徒について情報共有を行い、必要な場合はチーム支援を行ったり、担任等と面談を行ったりする。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・特性に応じた指導・支援のアドバイスを行う。 ・外部専門機関と学校をつなぐコーディネーターとなり、担任や授業担当等による効果的な支援につなげる。 ・状況に応じて校内支援委員会を開き、具体的な支援について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特性に応じた指導・支援のアドバイスを行う。

(6) HR経営と学校行事

学校行事は、生徒の自発的・主体的な活動を促し、より充実した集団生活を実現させることを目的として行われます。学校行事を通じ、個性の伸長や社会性を向上させ、主体的な態度を育むことを通じて、人間としての生き方についての自覚を深められるように留意しましょう。

また、さまざまな行事を通じて、仲間を意識し、HRとしての連帯感を強め、よりよい学校・HR生活を仲間と共に築こうとする、自主的な態度や行動力が養えるように支援しましょう。

◆学校行事をよりよいものにするためのポイント

- 行事が単なる息抜きにならないよう、行事を通じて生徒に身に付けさせたい力等、ねらいや目標を明確にして取り組ませましょう。
- 入学式や卒業式、各学期の始業式や終業式等は、生徒の学校への所属意識を深めるとともに、夢や高い目標をもたせ、集団における規律や気品のある態度を育て、公共の精神を養う場として意図的に展開していきましょう。
- 学校行事での体験活動で気付いたこと等を振り返り、発表し合うことを通じて達成感等を味わうことができるよう、活動を充実するよう工夫しましょう。
- 教科学習でつまずきがちな生徒や、特別な配慮を必要とする生徒に対しても、自分の得意とする能力等を活かすことができるよう、役割を分担させるなどの配慮をしましょう。
- ☆学校行事に取り組むときは、事前にスケジュール、活動内容等をできるだけ具体的に、また、視覚的な支援を活用しながら説明しましょう。変更をする場合はできるだけ事前に説明し、不安にならないように支援しましょう。

◆体育祭をよりよいものにするためのポイント

- HR委員や体育委員など担当生徒の自主的な取組を支援しつつ、選手の決定が公平に、全員の納得のもとに行われているかなど、細かく留意するようにしましょう。
- 応援合戦やマスコット、看板制作等を行う場面をHRづくりの絶好の機会と捉え、全員で取り組む姿勢を作り上げていきましょう。
- 体育祭は3年生の活気と指導力が鍵となります。個人の事情に配慮しながらも、傍観者が出ないように注意して組織・計画しましょう。
- 上級生には、委員会活動や応援パネル制作等の過程で責任を果たすとともに、自ら、質の高い企画を実行して成就感を味わわせるようにしましょう。
- 下級生の模範となるように指導しましょう。また、上級生のHRでの話合いを下級生に見せるのも相互の刺激となるでしょう。
- 「全員参加」・「精一杯取り組む」などを意識させ、当日はできるだけ生徒と一緒に過ごし、授業中では見ることのできない生徒たちのさまざまな面を見て、生徒理解に努めましょう。
- 体育祭終了後は、個人又はHRとしてどこがよかったか、今後の課題は何かについて振り返らせ、それらを通信等で紹介しましょう。

◆文化祭をよりよいものにするためのポイント

- HR担任として文化祭をHRづくりの重要な機会と捉え、生徒たちの主体性を喚起し、全員の力を集めて取り組めるようにしましょう。
- 企画するときは、班長会などで原案を練り、安易な決め方にならないようにし、HR担任として譲れない部分をはっきりさせておきましょう。
- 夏季休業中から準備作業を始めなければならないこともあるので、HRとしての作業日程を早めに決め、生徒たちに周知徹底しましょう。
- 取り組まなければならないことを整理し、作業日程や、一人一人の課題を明確に伝えましょう。
- 作業の進み具合のみに注目するのではなく、一部の生徒だけの活動になっていないか、一つ一つの段階ごとに話し合いの場が生まれ創意工夫がなされているか、といった活動の「質」についても十分留意しましょう。
- 毎日の取組の様子やそこで生まれたエピソード等を通信で知らせ、生徒たちを励ますとともに、全体の雰囲気盛り上げていきましょう。
- リーダーたちには、伝言板等を利用し、作業の進捗状況を全員に知らせる工夫をさせましょう。
- 文化祭終了後は、個人又はHRとしてどこが良かったか、今後の課題は何かについて書かせ、それらを通信等で紹介しましょう。

◆修学旅行をよりよいものにするためのポイント

- 修学旅行はあくまでも学習活動の一環として実施されるものです。その教育的意義やねらいを考慮し、単なる物見遊山的な旅行にならないように十分配慮しましょう。
- 学年会との連携を密にし、年度初めからの綿密な指導計画のもとで取り組むとともに、日頃からの学習習慣・生活指導を徹底しましょう。
- 学習のねらいを明確にして計画し、関係教科と連携しながら、班ごとに見学先の歴史や文化遺産、産業、経済等についての事前学習をさせましょう。
- 学校・学年の指導方針や、きまりを厳守させましょう。
- 集合・解散・点呼等の団体行動の基本を身に付けるよう、日頃から指導を徹底しましょう。
- 班別行動の班や部屋割りの際に、班が固定化したり、仲間はずれになる者が出たりしないように配慮しましょう。
- 乗り物酔いの心配な生徒や、持病・障害のある生徒、また食物アレルギーのある生徒について、事前的に的確に把握し、十分配慮しましょう。
- 修学旅行後は、アンケート調査を実施・整理し、取組全体を振り返って、今後のHR経営に活かしましょう。その際、修学旅行に参加しなかった生徒が疎外感を感じることがないように配慮しましょう。

(7) 保護者との連携

生徒は、家庭と学校の相互の関わりによって成長していきます。日々の教育活動を円滑に進めるうえで、保護者との連携や関係づくりは不可欠であり、それぞれの役割を確認し、協力し合っ
て生徒を育てていこうという意識をもつことが大切です。

保護者の多くは、自分の子どもの学校での様子を知りたいと思っています。一方で、学校のこ
とに関心が薄い保護者もいます。「担任はどんな人なんだろう?」「子どもは楽しくやっているだ
ろうか?」と不安を感じている保護者もいますし、「子どもに任せているから」「自分のことは自
分で決めればよい」といったなかば放任の保護者もいます。さらには、「高校生にもなって、親と
学校の連携も必要ないだろう」と考えている保護者も少なくありません。

教職員が保護者に共感する気持ちを示しながら関わることによって、保護者が学校に関心をも
ち、学校と連携することが生徒の成長に必ずつながることを伝えていきたいものです。

保護者面談や保護者会は、HRや生徒の様子を伝えるとともに、生徒の進路をどのようにして
実現するのか、課題をどのようにして解決していくのかということについて一緒に考えることが
でき、相互の信頼関係を築ける重要な機会といえます。

◆日常的な連絡・連携のポイント

- 生徒が登校しておらず家庭からの連絡もない場合は、速やかに学校から電話をして、生徒の様子
を聴くようにしましょう。
- 保護者と日頃から情報共有を行い、信頼関係づくりを進めましょう。必要なときに連絡してもら
えるよう、学年便りやHR通信等を通じて協力体制を築いておきましょう。
- HR通信を適宜発行することが連携の第一歩となります。書く目的やねらいを明らかにし、HR
担任が目指したい生徒の姿に近づく場面が見られたとき、その内容を担任の思いや喜びとともに
伝えましょう。
- HR通信は、HR活動や授業、学校行事等の中で見られた生徒のよさや頑張っている様子等、具
体的な出来事を捉えて伝えましょう。
- ☆特別な支援が必要な生徒の保護者に対して、安易に他の機関や専門家を勧めることは、抵抗を感じ
ている保護者を傷つけたり、学校不信を招いたりしかねません。特別支援教育学校コーディネ
ーターや学年主任、管理職等とも相談しながら保護者の気持ちに寄り添い、タイミングを考えて
慎重に行いましょう。

◆保護者面談や保護者会のポイント

- HR担任は個人情報に配慮しつつ、HRの強みや課題を伝えるとともに、「生徒の成長を一緒に
考える」よう呼びかけましょう。
- 保護者面談や保護者会の時には、できるだけ多くの保護者の方に参加してもらおうことができよ
う、参加の呼びかけ方を工夫しましょう。
- 保護者が参加してよかったと思える運営を心掛け、保護者に生徒の頑張りを伝えるとともに、そ
の頑張りが見える生徒のエピソード等を持ち帰ってもらうことも大切です。保護者に子どもを安
心して任せられると感じてもらえるような信頼関係を育みましょう。

実践事例編



- ◆ ホーム日誌を有効に利用している。表紙の裏に「日直の仕事」として、教室の戸締まり、消灯、黒板の整備等のほかに、ホーム日誌記入のルールを示して記載させるようにした。
 - ・何でも自由に記載してもよいが「みんなが見る」ということを常に考えて書く。
 - ・人が見て嫌な気持ちになるようなことは書かない。
 - ・5行以上書く。足りない場合は書き直し。面倒でも、1巡目のときに書き直しも含めてしっかり指導を入れておくと、よいホーム日誌になる。自己開示の場となったり、同級生の思わぬ一面を知れたり、思いや悩みに共感できたり、生徒はホーム日誌からさまざまなことを吸収している。また、担任からの一言コメントから思いを伝えることができる。
- ◆ 生徒に一日の日課表や学習時間等を毎日記録させ、振り返らせることにより、自分の生活を客観的に見つめ直させて、より充実した日々を送るにはどうしたらよいかを考えさせた。担任がコメントを書いたり、個人面談の時の参考資料にしたりして、生徒の思いや悩みを受け止め、時には励まししながら、進路実現に向けての一材料として活用していった。
- ◆ 面談での指導を大切にし、年間を通じて、定期考査の終了後や長期の休み明け等の節目ごとに行っている。形態は、生徒との個人面談であったり、保護者も入ってもらって三者面談を行ったり、状況に応じてより効果的な形態を工夫している。副担任にもできる限り入ってもらっている。生徒の思いや意見、悩み等を聞いて生徒理解につなげるとともに、学習や学校生活におけるさまざまな活動に対する関心や意欲を喚起するよう努めている。
- ◆ 掃除が十分にできていないという実態があったので、学校全体で統一した指導を行うように教員間で意思統一をしたうえで、生徒が自主的に取り組むように指導している。各班の班長を決め、班長を中心に生徒自らが考え、動く体制を作るよう、各区域の掃除担当の先生方と話し合いながら効果的な指導方法を工夫している。

〈中学校の例〉

- ・毎日テーマを与え、それについて30字以上の文章を生活日誌に書かせ、時にはその内容を通信で紹介した。子どもの思いや考え、友達関係の把握もでき、学級経営上の参考となった。
- ・夏休み中に登校日を設定し、すべての宿題をやりきるまで登校を促し、2学期をスッキリした状態で迎えさせた。また、生活のリズムを学校モードに変えることができた。
- ・年度当初の1週間で学級のルールを徹底し、自分たちで行動できる基盤をつくった。前日の放課後、黒板に提出物等の出し方や活動内容を板書しておく、登校した子どもは朝の会までに指示通りに活動した。毎日繰り返し、できたことを評価することで、学級のルールが定着した。

〈小学校の例〉

- ・計画性をもって授業や生活と向き合った。子どもが見通しをもてるように、夏休みまでのカウントダウンなどを行った。
- ・集団の一員として、最上級生として目指す自分の姿を明確にもたせるため、学校が目指す姿と、担任としてどのように成長して巣立ってほしいかを伝え、「目指す自分の姿」を目標という形で示させた。学習意欲、自律的な委員会活動、全校における縦割り班での活動の際にも、自分が掲げた目標を意識することで、目標をもって失敗を恐れずに取り組むようになった。

- ◆ 全員の名前と空欄を記入した用紙を準備し、ホームで配付して自分以外のメンバーのよいところを書いたら次の人に回していった。最後に、担任が回収し短冊形に切り取って、本人に渡すことで、肯定的な気持ちをもたせるようにした。
- ◆ 帰りのSHRで一日2～3人を割り当て、前でスピーチをさせた。それぞれが本をもって来て、その本の魅力やなぜその本が好きになったのか、また読書後の自分の変化等を自由に話させることで、本への知的好奇心を高めることにつなげた。
- ◆ その日が誕生日の子どもをホームで言い、小さなカードを全員に配ってバースデーカードを作ることで、生徒同士の関係性を高めていった。
- ◆ 講演や講話があるときには、朝のSHRで担任の言葉として簡単に講師の紹介をした。配付資料は読まない生徒でも、何らかの関心をもって講演に向かわせることができた。また帰りのSHRでは、担当からの振り返りシートなどがなくても何かの形でコメントを書かせて振り返りをさせた。ほとんどの場合、生徒は思った以上にしっかり記入していた。聞きっぱなしにせず、自分の中で整理させる場面を設定することはとても大切なことだと思った。
- ◆ 生徒による「朝の1分間スピーチ」を行っている。1巡目は自己紹介から始まり、2巡目からは関心をもったニュースや話題の紹介や感想、心に残る出来事や体験等、みんなが明るい気分になり、元気になって今日一日を頑張ろうという気持ちになれるような内容で話をするように指導しており、表現力や聞く力も身に付いてきている。担任や副担任も入って一緒に行い、生徒同士だけでなく、時には教員の意外な一面も知ることができ、ホーム全体に和やかな雰囲気生まれている。

〈中学校の例〉

- ・帰りの会では、一日の反省点よりも、班の誰がどんな場面で頑張っていたかなど、「よかったこと」を振り返らせて発表させた。また、その日に「一番輝いた人」を「日直班」から発表してもらった。このことにより、友達の「よいところ」を意識する学級集団づくりが進んだ。
- ・朝の会、帰りの会では、学級担任からの伝達はできるだけ短時間で終わるように意識し、学級全体にしっかりと聴かせたい話がある時は、昼食の時間を活用して伝達することで、内容の定着化を図ることができた。

〈小学校の例〉

- ・4月の新年度が始まってすぐに、学級の子どもから好きな色、食べ物、遊び、教科や将来の夢や希望等のアンケートをとっておいた。このアンケートを使って誰のことなのかを考え、当てる活動をした。アンケートの内容がヒントになっているので、内容を分けて使うと一人につき、何回か出題することができる。朝の会・帰りの会等の短い時間で活用した。
- ・子どもと担任と保護者の三者で共有すると効果が大きいので、ミニ日記を毎日行った。発言しにくい子どもも日記になら書けることもあるので、悩みも発見でき、うれしいこともすぐに発見できることがあった。
- ・自分の言葉、行動、心が「笑顔の花」につながることを意識して生活できるように、朝（帰りの）会で行動目標を設定し、評価を行った。全員の「笑顔の花」は、ビー玉貯金としてクラスで貯めていき、みんなの励みとした。ビー玉が貯まったら、みんなでお楽しみ会を行った。

- ◆ 進路に関する指導は、1年次から3年間全体の流れを考えて、学年ごとに計画的に実施した。進路指導部や学年団からも進路に関する指導はあるが、全体指導のフォローにもなるし、HRで実施することでより丁寧な指導ができる。配付資料は「〇年〇H 進路について その1」等のようにタイトルと通し番号を付け、生徒に整理して保管させるように指導することで、振り返りをさせたり、学習の計画を立てるときに参考にさせたり、家庭で保護者と相談するときに使ったりさせた。
- ◆ 協議を進めるには、生徒が気兼ねなく自由に発言できる環境をつくるのが大切であり、また、LHRの雰囲気や日常の雰囲気につなげるように心掛けている。
- ◆ 年度初めの新しいHRになったばかりのころに、早くHRの生徒が打ち解けることができるように、人間関係づくりのプログラムを取り入れた。初任者研修で受講し、その後、心の教育センター等が実施する研修も自主的に受講して手法を学び、今年初めて自分でやってみた。結構楽しそうにやっていて、初めて同じHRになった生徒同士でも話をしていたので安心した。最近では、誰とでも分け隔てなく話ができ、協力し合えるHRになってきたように感じており、効果的な取組であったと思う。
- ◆ 新HRになったときに、早くお互いを知ることができるように「ホーム名簿」を作っている。一人1ページ書くようにし、生徒の実行委員に項目や様式を作ってもらい、生徒から説明、配付させている。製本まで生徒が行うようにさせ、自主性や積極性も身に付けることができるように指導している。
- ◆ 教育実習生が来ているときに、大学生活や大学で学んでいること、将来の夢等を語ってもらった。年齢が近いということもあり、生徒たちは熱心に聞いていて、大学生活に憧れを抱いたようだった。話をしてもらった教育実習生の人選も大事で、生徒にマイナスの影響を与えてはいけないと思うので、事前に内容については、よく話し合っておくことが大事だが、教育実習生に話してもらったのも進路を考えるうえで参考になる。また、進学や就職で合格した3年生に志望した理由や勉強方法等を話してもらっているが、生徒の進路意識を高めるのに効果がある。

〈中学校の例〉

- ・ 出身小学校別に班を編成し、出身小学校のトイレ掃除を行った。トイレ掃除そのものには、子どもの謙虚な気持ちや、相手を思いやる気持ちを育てるなど、多くの「気付き」や「学び」が期待でき、併せて、同じトイレを掃除する者同士には、強い仲間意識をもたせる効果もある。出身小学校に対して、お礼の気持ちを込めながら行うトイレ掃除では、小学生や小学校の先生から受けた感謝の言葉が、子どもの「自尊感情」を育むことにつながった。
- ・ 学習指導要領「学級や学校における生活上の諸問題の解決」の授業において、「期末テストに向けて、私たちの朝学習がどうすればよくなるのか、考えよう。」を議題として班や学級全体での話し合いをもった。事前に行ったアンケート結果をもとに、朝学習の取組に否定的な仲間の存在や、仲間同士での教え合いが円滑にできていないこと等を事実として確認した。そして、「仲間のために自分ができること」や「仲間に望むこと」に加えて、「仲間への批判」や「見下した行為」はしないなど、人権的な視点も含めて話し合いを深めた。さらに、学級で向上するための目標と具体的な行動を決定し、その後の朝学習に反映させることができた。

- ・学習指導要領「望ましい勤労観・職業観の形成」の授業において、地域人材（調理師兼経営者）を講師として活用した。講師への礼状を書くことを設定したことで、社会で生きる自分自身の決意について思考し表現することができた。一見料理の世界とは関係ないと思われる掃除を何年もしてきたこと等、講師の料亭での修行時代の話や、包丁を用いた実演、子どもの講師への質疑応答から、子ども自身が、学校での学習や日常生活を振り返り、仕事の厳しさとやりがい、夢や志に向かって目標をもつことの大切さなどを実感し、事後の生活（掃除や係活動等）に生かせるものとなった。

〈小学校の例〉

- ・学習指導要領「望ましい人間関係の形成」の授業において、学級の子どもが日常の生活と関連付けながら、集団での話し合いを通してみんなでより仲良くできるように、役割や責任、個人の目標を自己決定し、人間関係づくりの活動を計画した。その後、特設の時間に、一人一芸の課題や班でのクイズ、縄跳び、ダンス、寸劇等、司会者が評価を入れながら進行した。終わりの感想の場面では、一人一人の努力や日頃見られないところを認め合う声も聞かれた。
- ・運動会（並び方、綱引き）や遠足（動物ウォークラリー）についての取組を、1・2年生の合同で実施した。活動を通して、1年生は自分達が来年度の1年生にこんなことをしてあげようという意欲が生まれ、2年生の中でリーダーになることが難しい子どもも、1年生には優しい声掛けをし、活動に対して意欲をもって動けるようになった。

実践編1（HR担任）（3）HR通信 p. 18

- ◆ 保護者との良好な関係を築くため、生徒の様子や学校行事等の写真を交えながらHR通信を毎日発行した。初めは毎日配られると読むのが面倒くさいと批判的な生徒もいたが、数ヶ月を過ぎると、通信を楽しみにしてくれるようになった。保護者から「子どもの表情や学校の取組がわかる」「子どもとの会話のネタが増えた」と評判であった。
- ◆ 楽しいホームをつくることができたらという思いから、副担任の時には「副担任通信」を発行した。4コマ漫画や短歌を取り入れ、年度末にはHR通信上で最優秀賞を発表した。1年後には、ささやかな「青春の歌集」を作成した。このような取組を通して、国語の力が十分でない生徒も、だんだんよい作品を生み出すようになった。
- ◆ ホーム通信で偏りなく生徒の名前が出るように配慮した。担任・副担任だけでなく、他の職員、保護者、企業人等のコメントをできるだけ手書きで掲載した。

〈中学校の例〉

- ・どんな些細なことでも、昨日より頑張っていること・できたことを見逃さずに、個人、グループ、学級全体等それぞれの活動や状況に応じて、授業中、朝の会や帰りの会、学級通信等で伝えていった。

〈小学校の例〉

- ・子どもを5班に分け、1週間に1回自分の書いた記事が載るよう、5cm×5cm位の紙に書かせて貼り合わせて、子どもたちが作成する学級通信を発行した。子どもも楽しみにし、家庭での会話や参観日での大人と子どもとの会話が増えた。名前も子どもが考え、学校での生活を家庭に知らせるので「出前新聞！」とした。
- ・保護者との情報交換として、学級通信（返信欄）を活用し、子どもの様子や保護者の意見をもらった。保護者の返信を学級通信で紹介することで、保護者間の意思疎通を図った。

- ◆ 文化・レク班とともに、みんなに読んでもらいたい本を学級文庫として教室のコーナーに設置した。
- ◆ 授業の板書内容に注目・集中させるため、教室の前面は何も掲示しないようにし、掲示物やごみ箱はすべて教室後部に配置した。授業中に他のことに気を取られず、効率よく学習が進んだ。
- ◆ 季節感のある掲示物を選び、花を飾るなどして情緒の安定を図った。
- ◆ 机の配置の目安になるよう、床に印を付けた。縦と横がそろい整然とした教室になった。

〈中学校の例〉

- ・教室にゴミがあったり、机・椅子が乱雑であったりという状況では、落ち着いた学習ができないので、机の位置を床にマジックで記し、机を移動しても元の位置が分かるようにした。また、掃除がない日は、「ゴミを一人5個拾いましょう。」などの指示をし、どんな小さいゴミでも学級担任が数を数え、クリアした子どもから席に着かせた。学級担任は放課後、必ず教室を点検し、翌日気持ちのよいスタートができるように整えた。

〈小学校の例〉

- ・子どもの自己肯定感を育み、お互いが認め合う学級になるために、帰りの会で「いいところ見つけ」を行った。教室の後ろの壁に掲示した「クラスの木」に、見つけた内容を「葉」や「実」の紙に書いて掲示した。参観日等には、保護者も見ってくれるので、子どものよさが認められる機会が増えた。
- ・毎日の帰りの会で、頑張っていたり、友達を助けてあげたりしている人の名前と行ったことを子どもに発表させた。また、発表したことをクラスのキャラクター（子どもが考えた）用紙に書き、教室に掲示した。クラス内で発表することだけでなく、教室に掲示することで他の子どもの目に触れ、自己肯定感を育むことや、お互いを認め合うことができるようになった。毎日1つは帰りの会で発表することを目標にしてきたので、友達のよい所を見つけることを心掛ける子どもが増えてきた。
- ・毎日、放課後の教室の掃き掃除をし、机を揃えた。朝、子どもが気持ちよく登校でき、落ち着いた教室になった。



実践編2（全教職員）（1）HR経営と学習指導 p. 20

- ◆ 新聞記事を読んで、記事の要約やそれについての自分の意見を書かせることで、考えが整理され、日常生活においても、論理的に表現できるようになった。

〈中学校の例〉

- ・通常の学級において、特別な支援を必要とする子どものニーズを大切にした学習支援（授業者の説明や発問・質問、教材掲示、教材の工夫、実物の提示等）を行った。視覚、聴覚、嗅覚、触覚を使ったものや、読む、聞く、書く、話す活動をバランスよく行うことで、子どもの興味や関心、思考も深まった。

〈小学校の例〉

- ・国語の時間に5・7・5の17音で俳句を作ることで、感受性が育ち、言語感覚が豊かになった。選句会では、新しい発見や感動、共感もあり学級が一つになった。

実践編2（全教職員）（3、4）HR経営とキャリア教育・進路指導 p. 22～23

- ◆ 自分の価値観をもとに、これからの在り方生き方（職業観・勤労観等）を考えさせ、今の自分ができることを具体的に書かせた。
- ◆ 自分について、自分と関わりの深い人にインタビューし、「他者から見た自分」像を把握し、まとめさせた。他人と自分の見方の差異を認識することで、自己理解を深めさせた。また、自分でも気付いていなかった自分に気付いたり、自他ともに知っている部分を広げたりすることで、生徒の進路における可能性を広げた。
- ◆ 社会人としての礼儀正しい態度は一朝一夕には身に付かないので、言葉遣い、あいさつ、人の話を聴くことを常に意識させるように、全教員でその都度指導した結果、良い習慣が身に付いた。
- ◆ 朝夕のSHRの時間を利用して、SPI（就職問題集）を解かせ、解説を行うことで、問題に慣れ、自分の力で解けるようになった。
- ◆ 何度も面接練習を重ねることで、世の中で起こっているさまざまな事柄について、関心ももてるようになり、自分の意見を言えるようになった。



〈中学校の例〉

- ・年間を通して、地域の職業人を学校に招き、仕事への理解を深めるため「仕事に関する講話」や「実習指導」等の取組に関わってもらった。
- ・地域と学校が互いに連携を図りながらキャリア教育に取り組み、地域ぐるみで子どもたちの社会的・職業的自立に必要な能力等の育成を図ったことにより、取組がより豊かで深みのあるものになった。また、地域の方々との交流や共同作業を通して、豊かな人間関係を築く能力を育成できた。
- ・学区内の小学校と中学校の連携を生かした、9年間を見通した一貫性のある指導と支援の在り方を追求した。
- ・「将来の目標」「その高等学校に行きたい理由」「将来の夢」を考えていく中で、どのような生き方をしたいのかしっかり考えさせていった。安易に「行ける学校」への受験ではなく、「行きたい学校」への受験に向けて、学習や生活における指導やカウンセリングを行ってきた。
- ・高校生（卒業生）に制服姿で中学校に来てもらい、進路についての全校での聞き取り学習を行った。高校生から、進路決定に至るまでの悩んだこと、勉強方法など、後輩へのメッセージを伝えてもらった。また、中学生から質問をすることで、進路についての意識がより強くなった。
- ・高等学校の教員に学校に来てもらい、コース別に分かれて説明会を行い、子どもが興味をもった高等学校の情報を得ることができるようにした。参加対象を3年生の生徒・保護者だけでなく、他の学年の保護者も参加できるようにし、早くから進路に対する意識を家族と形成することができた。また、説明会後にグループで子ども同士が感想を出し合い、進路に向けての意識を高めることができた。
- ・1年生から高校入試への面接練習も兼ねた面接を行った。12月から帰りの会で進路についての話をし、生徒に現時点での中学卒業後の進路を考えさせた。3学期の放課後には、2～3人ずつ面接練習を行った。引き戸の開閉方法や礼の仕方、椅子の座り方、目線、話し方等の練習も含めて行うことで、入試への緊張感も体験することができた。練習では、「卒業後の進路」「進路に向けて必要だと思うこと」「将来の目標」「この1年間で自分が努力してきたこと」「自分の長所と短所」「学級活動や生徒会活動で取り組んできたこと」「ボランティア活動や部活動」「友達関係」等について質問し、子どもの思いや考えを聞いた。子どもの進路に対する意識も芽生え、有効な取組となった。

〈小学校の例〉

- ・自校の課題について全教職員で共通理解を図り、キャリア教育の視点を取り入れた学級経営や学年経営を行うことで授業が改善され、学力も向上した。
- ・キャリア教育を中核に位置付けた校内研修を行った結果、学習指導要領の内容を踏まえた基礎的・基本的な内容の充実が図られ、教員の目的意識も高揚した。
- ・異世代・同世代と学び合う体験活動を充実し、教科や道德の時間・特別活動との内容関連と系統性を見直した結果、学校組織の活性化を図ることができ、子どもの学習意欲の向上にもつながった。
- ・学級担任だけでなく学年単位で研修の時間をとり、指導計画の見直しを図ることで、学習内容と将来の生活を関連付けた指導を行った。

- ◆ HRの中で否定的な言葉や人を中傷する言葉が飛び交い、おとなしい生徒が教室にいろいろな状態になっていた。LHRの時間に、人から言われたら嫌な言葉（チクチク言葉）と人から言われたらうれしい言葉（フワフワ言葉）を生徒にカードに書かせて黒板に掲示し、それをもとに、どういうことを言われたら嫌な気持ちができるか、どういうことを言われたらうれしい気持ちができるか、全体で共有した。その結果をポスターにまとめて教室に掲示し、授業やSHR等、日常のコミュニケーションの中で意識し合うようにしたところ、否定的な言動が減り、肯定的な言動が見られるようになった。

〈中学校の例〉

- ・自己決定を大切にしたいと考え、班行動において班長に権限をもたせ、班の自治を促進した。毎週班長会を行い、班の課題を共有するとともに、課題解決に向けて班長として、どのような取組をしたらよいかについてみんなの意見を出し合い、その中で自分がやっていこうと考えるものを選択させて取り組ませた。そのことを通して、班長としての自覚が芽生えるとともに、班長同士の協力や信頼の雰囲気が高まっていった。
- ・学級内の共感的な雰囲気を構築するために、特別活動における学級活動の時間を活用した話し合い活動において、付箋を使ったブレインストーミングからKJ法へと展開した。展開に際して、批判しない、人の話は最後まで聞くなどのルールを確認して行うことで、協力や信頼の雰囲気を醸成することにつながった。
- ・Q-Uを実施・分析し、学年団で集まり分析の報告を行った後、一人一人の子どもへの手立て（自尊感情を高めるためにほめる等）を考えた。
- ・クラスで問題が起きた場合、どのように子どもに返していくのかを考える必要があることから、「その時に」「その日の帰りの会で」「次の日」「機会（チャンス時に）」が大切と考えた。子どもへの対応の仕方はいろいろ考えられるが、どの方法が最善であるかを、瞬時に判断して対応していった。その時に職場に相談できる同僚がいることも大きな力となった。同じ思いの同僚の存在、相談してみようという関係の同僚をつくっておくことの大切さを感じた。
- ・「いじめ」や「嫌がらせ」につながる行為があった時には、課題解決の方向とゴールは、子どもの中から生み出せる「子どもが本来持っている正義感」を信じることが重要であると考えて取り組んだ。学級担任は、子どもと一緒に課題解決の方向とゴールについて考え、子どもの気付きをつなぎ合わせる役割を果たした。

〈小学校の例〉

- ・子どもが問題行動を起こした時は、別室に呼び指導を行っているが、子どもの行為を責める前になぜそのようなことをしたのか、今どのように考えているのかについて問いかけ、子どもに答えさせたいうえで、やった行為の非や問題性について、「先生は～と考えている」とアイ・メッセージで指導を行った。そうすることによって、子どもは自分の行為を先生は許してくれないが、気持ちを理解してくれていると感じたのか、いろいろと話しかけてくれるようになり、問題行動も少しずつ減少していった。

- ・欠席した子どもへのお見舞いの手紙シートを作成した。欠席した子どもに、「みんな、あなたのことを思っているよ」という気持ちを伝え、クラスの子どもには教室にいない子どもへの思いやりを忘れさせない指導として行った。欠席した子どもだけではなく、保護者ともつながることができた。
- ・「生活げんき調べ」やQ-Uで家庭や学校での生活実態を把握し、これからの生活に対して目標をもたせた。
- ・Q-Uを実施し、学級満足度尺度のプロット図に応じた活動を、短時間で継続的に取り入れた。例えば、朝の会や帰りの会等を利用して「受容感」を育みたい場合、その目的に特化した取組を継続することで、効果が得られた。

実践編2 (全教職員) (5) HR経営と生徒指導 イ HR集団づくり (ルールづくり) p. 25

- ◆ HRの「目標」を話し合い活動により決定し、それに向けてどんなことができるかを生徒に考えさせ、行動させる取組を行った。併せて、「ホーム目標」及び「目標達成のための手立て」を教室の正面に掲示し、折りに触れてできているかどうかを生徒に自己評価させた。

〈中学校の例〉

- ・2週間に1回程度の定期的に行う班長会で、学級の課題を確認した。後日、班長会で出された課題を学級内に報告したうえで、解決方法を班会で探し、各班からの意見を参考として、学級全員で確認しながら必要な学級独自のルールを作成した。
- ・ルール違反があった時、「～しなさい。」という注意ではなく、「どんなルールになっていたのかな。」など、ルールを確認するような声掛けをした。また、ルールが守れている時や、当たり前のことが当たり前に行っているときに、「ありがとう。助かった。」などの肯定的な声掛けを行った。

〈小学校の例〉

- ・その場でよい行為をほめ、いけない行為は指導した。



- ◆ 友達のよいところを互いに書き合い、本人に渡す取組を行ったことで関係性が高まった。
- ◆ 誕生日の生徒の名前を朝のSHRで紹介し、相手が嫌になるようなことは絶対に書かないというルールで、みんなにバースターカードを書かせた。最初は心配もあったので、HR担任が生徒の書いたカードの点検をした。日頃、あまり話をしたこともない友達からも、温かい言葉をもらって、だんだんと仲良くなった。カードを読んでいる時の生徒の顔は、本当にうれしそうだった。
- ◆ 社会的スキル（話の聴き方、伝え方、あいさつ等）への関心を高め、社会性を獲得できるよう、相手を尊重した頼み方、断り方の学習を行った。
- ◆ 日直が1分間スピーチを行うこととし、全員が「傾聴する」ことを徹底した。「聴くこと」の大切さを実感させるとともに、他人の考えを尊重する態度が身についた。

〈中学校の例〉

- ・定期的に子どもと面談を行い、子どもの思いを聴いた。また、頑張っていることやよいところをほめて認めた。さらに、朝の会や帰りの会にエンカウンターを取り入れた。
- ・特別支援学級における理解教育の取組として、発達段階（学年）に応じて、ことわざ、漢字、国名等内容を工夫したカルタ取りを行った。個人戦でなくグループ対抗で行うことで連帯感が高まった。
- ・欠席した子どもの机の上に大きな封筒を置き、授業中や帰りの会で配られたプリントを同じ班の子どもが、丁寧に封筒に入れていった。その日が終わると、学級担任は封筒の下の部分に今日の学校の様子やその子どもへの温かい言葉をたくさん書いて、休んだ子どもの家に届けた。
- ・学級の中のおとなしいが運動はよくできる子どもに対して、学級担任から頑張りをほめていった。さらに、体育の授業を担当している教員と相談して、体育の時間の頑張りを教えてもらい、「体育の授業を見たけど、上手にパスを出していたね。〇〇先生もあなたのパスがいいところに出ていると言っていたよ。」とほめた。その後、自信をもつことができだしたのか、少しずつ積極性が見られるようになってきた。

〈小学校の例〉

- ・エンカウンターを、朝の会や帰りの会において継続的に実施した。スキルを学び、普段の生活の中で、生かされている場面を見つけ、ほめることで効果が高まった。子ども同士のつながりが強くなり、友達がいることのよさを感じるできるようになった。学級への所属意識や自己肯定感が少しずつ育ってきた。
- ・帰りの会で、「ごめんね、すごいね、ありがとうのコーナー」を作り、トラブルはその日のうちに解決するようにした。また、友達からほめてもらうことによって自尊感情を育むことができ、気持ちよく下校することにつながった。
- ・子ども一人一人に、毎日することや当たり前のことができているならば、積極的に肯定的な声掛けを行った。そうすることで、学級の中で子ども同士の肯定的な声掛けをよく聞くようになった。
- ・遅刻はしないと前日に約束をしていたにもかかわらず、遅刻をしてきた子どもに対して、感情的に叱るのではなく、「事故に遭っていないか心配していたよ。遅刻した理由を教えてくださいかな。」と声を掛け理由を聞いた。そのうえで、子どもに明日遅刻しないために何をするかを聞いて、帰りの会の後にも念を押して帰した。次の日から、遅刻をしなくなった。

- ◆ 配慮を要する生徒や心配な生徒を中心に、家庭訪問や電話連絡を行い、保護者との関係を密にした。
- ◆ 地域、保護者との関係が疎遠になりがちな定時制高校だからこそ、家庭訪問・職場訪問を年に1回は実施し、保護者との信頼関係を構築した。
- ◆ HR通信をこまめに発行し、日頃のホームや生徒の様子が保護者に分かるようにした。その結果、学校行事等へ参加してくれる保護者が増えた。

〈中学校の例〉

- ・ 指導が必要なことや気になることだけでなく、生活の中でよかった点を見つけ、連絡することで保護者とのつながりを深めた。
- ・ 連携を深めるため、生徒の様子などを日常的に電話等で連絡し合った。指導が必要なことや気になることだけでなく、生活の中でよい点を連絡している。
- ・ 年度当初に保護者から、「子どもが自信がなくて心配です。」と相談を受けていたので、学校生活の中で、頑張っている姿やできていること等について、1～2行程度の文章にまとめ、定期的に「〇〇さんの成長」と題して保護者に手紙を送った。保護者が手紙を読んで、夕食時などに肯定的な評価を返していくことにより、子どもが自信をもって発言したり、行動したりするようになった。また、保護者からも信頼され、保護者がPTAの学級役員になってくれ、側面から学級経営に協力してくれるようになった。
- ・ 感情が高ぶっている状態の方（地域の方）に対しては、複数の教員で対応するようにした。落ち着いて話せる場所で話を聴き、相手の思いを共感的に受け止めるとともに、お茶を出し、丁寧な言葉で話すことを意識した。また、学校が改善すべき点について説明し、学校だけではできないことについては、協力してもらうことで理解を求めることができた。

〈小学校の例〉

- ・ 子どもが学校生活で頑張りを見せた時に、帰宅時にその子どもの家を訪問し、保護者に子どもの頑張りを伝えるようにした。「今日、〇〇さんがすごく頑張ったので直接伝えたくてちょっと寄らせていただきました。」と言って、子どもや家族に訪問の意図を伝えることが、よりよい関係づくりにつながった。
- ・ 保護者からの学校批判等に対して、相手の話を遮ることなく、誠意をもってよく聴くことで、保護者の感情も和らぎ、落ち着きを取り戻すことができた。また、話の中心を、子どもの成長のためにどうしたらよいかを考える方向に導くことで、前向きな話し合いにすることができた。



参考文献等

- * 「教育の情報化に関する手引き」 文部科学省
- * 「自分を社会に生かし、自立を目指すキャリア教育」
—高等学校におけるキャリア教育推進のために— 国立教育政策研究所
- * 「高等学校 ホームルーム指導の手引」 埼玉県立南教育センター
- * 「学級集団づくりのゼロ段階」 河村茂雄 図書文化
- * 「人権が尊重された学校づくりのためのチェックリスト（学習指導）」 高知県教育委員会
- * 「すべての子どもが『分かる』『できる』授業づくりのガイドブック～ユニバーサルデザインに基づき、発達障害の子どもだけでなく、すべての子どもにあると有効な支援」 高知県教育委員会
- * 「高知のキャリア教育」 高知県教育委員会
- * 「高等学校生徒指導要録の手引」 高知県教育委員会

監 修 久我直人 鳴門教育大学大学院教授
松久眞実 プール学院大学講師

全体調整担当 高知県教育委員会事務局 教育政策課

企画編集担当 高知県教育委員会事務局 人権教育課

執筆担当 高知県教育委員会事務局 高等学校課
高知県教育委員会事務局 特別支援教育課
高知県教育センター
高知県心の教育センター

作成協力 高知県教育委員会事務局 生涯学習課
高知県教育委員会事務局 スポーツ健康教育課

イラスト 基本編・実践編 高知大学教育学部芸術文化コース 吉岡ゼミ
矢野聡珠・南 静香・飯田ゆき・鶴見さくら・
碓香菜子・杉原 絢・井上芽衣・張雅茹・戴伊審
表紙・裏表紙・中扉 川崎敬子

※本ハンドブックの作成にあたって、アンケート調査や実践事例提供等、多くの教員に協力していただきました。

学級経営ハンドブック

「夢」・「志」を育む学級づくり（高等学校編）

平成26年3月作成

編集・発行 高知県教育委員会

〒780-0850 高知市丸ノ内1-7-52

TEL 088-821-4765（人権教育課）

